広田遺跡ミュージアム・南種子町郷土館

館報　第６号

令和４年３月

南種子町広田遺跡ミュージアム

広田遺跡ミュージアム　館報

広田遺跡ミュージアム　館報　目次

第１章　館の概要

第１節　館の概要と組織…… P1

（１）館職員数内訳

（２）館職員名簿

（３）南種子町広田遺跡ミュージアム協議会

（４）館職員事務分掌

第２節　利用状況 …… P2

第２章　館の事業

第１節　展示 …… P3

（１）企画展

（２）イベント

第２節　教育・普及啓発 …… P3 ～ P6

（１）広田遺跡ミュージアム　ジュニア学芸員

（２）たねがしま古代塾

（３）学校，一般向け館利用

（４）出前講座・研修・博物館実習・職場体験等

第３節　管理・運営 …… P6 ～ P9

（１）コロナウイルス感染拡大防止

（２）広田遺跡語り部の会

（３）視察・研修・職場研修

（４）広報

（５）文化財の保存・管理

（６）防火・防犯訓練

第４節　調査・研究 …… P9 ～ P16

（１）調査・研究

（２）研究報告

「島間の四方祭について」

南種子町文化財保護審議会副会長　柳田和則

広田遺跡ミュージアム学芸員　石堂和博

写真図版 …… P17 ～ P20

第１章　館の概要

第１節　館の概要と組織

（１）館職員数内訳

令和３年度

役職	専任正職	兼任正職	非常勤	専任会計年度	計
名誉館長			1		1
館長		1			1
学芸員	1	1		1	3
庶務係		1			1
学芸員補				1	1
受付事務				1	1
合計	1	3	1	3	8

※上記の他，語り部を１日１名配置。
※常任の学芸員１名を配置する博物館相当施設である。

（２）館職員名簿

役職	氏　名
名誉館長	下野敏見
館長	園田一浩、社会教育課長兼務
副館長	館長兼務
学芸員（専任）	石堂和博（文化係長兼務） 豊島巧（郷土館学芸員兼務）
学芸員（兼任）	小脇有希乃（町埋蔵文化財センター学芸員兼務）
庶務係（兼任）	吉本利江
学芸員補（事務）	牛野夢美
受付事務	上浦絵瑠

（３）南種子町広田遺跡ミュージアム協議会

○委員名簿

令和３年度			
会　長	柳田和則	副会長	宮里照夫
委　員	向井良隆、大脇光矢、野首久教		

開催日：令和３年４月27日(火)
場　所：南種子町中央公民館第一会議室
協　議：入館者等状況，令和２年度事業実績，令和３年度事業計画，運営計画，重要文化財等

（４）館職員事務分掌

役職	氏名	主な職務分掌
名誉館長	下野敏見	博物館事業に関する助言
館長	園田一浩 （課長兼任）	館の運営管理の総括に関すること
副館長	同上	館長職務の補佐
学芸員 （専任）	石堂和博 (文化係長兼務)	常設展示・特別展示に関すること 資料の収集・保管に関すること 重要文化財の保管に関すること 館報・図録その他刊行物の作成に関すること 専門的調査・研究に関すること 普及啓発・講座・広報等に関すること 体験学習に関すること 他の施設、学校等との連携に関すること 予算の編成執行に関すること
学芸員 （兼任）	小脇有希乃	普及啓発・講座・広報等に関すること
学芸員 （専任）	豊島巧	文化施設の管理・学芸に関すること 資料の収集・保管に関すること 普及啓発・講座・広報等に関すること 博物館協力団体の育成に関すること
庶務係 （兼任）	吉本利江	館の管理に関すること 予算経理，ミュージアムショップその他庶務の総括に関すること 運営協議会に関すること 史跡公園の管理に関すること
学芸員補 （学芸）	牛野夢美	館，史跡公園の案内業務に関すること 受付・観覧料等の徴収に関すること 予算経理，ミュージアムショップその他庶務に関すること 体験学習に関すること
受付事務	上浦絵瑠	受付・観覧料等の徴収に関すること 館，史跡公園の清掃及び管理に関すること
語り部	長田君應 ほか７名	館，史跡公園の案内業務に関すること 館，史跡公園の清掃及び管理に関すること

組織図

館長 － 副館長 － 学芸員 － 学芸員
（専任・兼任正職）（会計年度）
庶務係 －学芸員補－受付事務
（兼任）　（庶務）
南種子町広田遺跡ミュージアム協議会，名誉館長

第 2 節　利用状況

（1）　利用者数

年度	利用者数 (人)	町内	町外
26	2,429	1,268	1,161
27	11,225	3,064	8,161
28	7,226	1,899	5,327
29	7,520	1,619	5,901
30	6,194	1,231	4,963
令和元	6,176	1,414	4,762
2	4,021	1,720	2,301

（2）体験学習利用者数

平成 27 年度　981 名，350,500 円
（ 初 級 775 名　232,500 円，　中 級 176 名　88,000 円，上級 30 名　30,000 円）
平成 28 年度　805 名　340,600 円
（ 初 級 402 名　120,600 円，　中 級 366 名　183,000 円，上級 37 名　37,000 円）
平成 29 年度　699 名　275,100 円
（ 初 級 442 名　132,600 円，　中 級 229 名　114,500 円，上級 28 名　28,000 円）
平成 30 年度　548 名，229,400 円
（ 初 級 313 名　93,900 円，　中 級 203 名　101,500 円，　上　級 31 名　31,000 円，　特 設 1 名　3,000 円）
令和元年度　503 名、227,900 円
（ 初 級 258 名　77,400 円，　中 級 193 名　96,500 円，上 級 51 名　51,000 円，特 設 1 名　3,000 円）
令和 2 年度　182 名，74,500 円
（初 級 120 名　36,000，中 級 55 名　27,500，上 級 5 名　5,000 円，特 設 2 名　6,000 円）

（3）書籍販売

平成 27 年度　売り上げ：53,500 円
（郷土誌 4 冊，広田遺跡報告書 6 冊，南種子の民俗 9 冊，南種子の民具 6 冊，南種子の文化財 21 冊）
平成 28 年度　売り上げ：34,000 円
（郷土誌 4 冊，広田遺跡報告書 2 冊，南種子の民俗 7 冊，南種子の民具 2 冊，南種子の文化財 18 冊）
平成 29 年度　売り上げ：31,500 円
（郷土誌 4 冊，広田遺跡報告書 3 冊，南種子の民俗 5 冊，南種子の民具 2 冊，南種子の文化財 8 冊，広田遺跡ミュージアム館報 3 冊）
平成 30 年度　売り上げ：41,500 円
（郷土誌 0 冊，広田遺跡報告書 6 冊，南種子の民俗 2 冊，南種子の民具 2 冊，南種子の文化財 11 冊，広田遺跡ミュージアム館報 4 冊，南種子の神社仏閣 24 冊）
令和元年度売り上げ：21,000 円
（郷土誌 3 冊，広田遺跡報告書 1 冊，南種子の民俗 4 冊，南種子の民具 0 冊，南種子の文化財 5 冊，広田遺跡ミュージアム館報 1 冊，南種子の神社仏閣 7 冊）
令和 2 年度売上：12,000 円
（広田遺跡報告書 1 冊，南種子の民俗 1 冊，南種子の民具 1 冊，南種子の文化財 2 冊，広田遺跡ミュージアム館報 6 冊，南種子の神社仏閣 6 冊）

（4）開館日数

平成 27 年度　315 日
平成 28 年度　314 日
平成 29 年度　308 日
平成 30 年度　314 日
平成 元年度　295 日
令和 2 年度　267 日

※令和 3 年度の臨時休館
・停電に伴う臨時休館
　令和 3 年 5 月 11 日（火）～令和 3 年 5 月 17 日（月）
・緊急事態宣言に伴う休館
令和 3 年 8 月 14 日（土）～令和 3 年 8 月 31 日（火）
・まん延防止重点措置の適用に伴う臨時休館
令和 3 年 9 月 1 日（水）～令和 3 年 9 月 13 日（月）
・まん延防止重点措置延長に伴い，町民のみの利用
令和 3 年 9 月 14 日（火）～令和 3 年 9 月 30 日（木）
・ロケット打ち上げ延期に伴う臨時開館
令和 3 年 10 月 25 日（月）

第２章　館の事業

第１節　展示

（１）企画展

今年度は，コロナウイルス感染症拡大防止の観点から，企画展の開催が１回となった。

○企画展：広田遺跡ミュージアム　2021 年度冬季企画展「ロケットのある風景」

期間：令和４年１月４日～令和４年３月 31 日

内容：広田遺跡ミュージアムでは，年２回（夏・冬）の企画展を行っている。本年度はコロナ感染拡大防止のため，冬１回の開催となった。企画展の主旨は以下である。南種子町には，至る所にロケットがデザインされたモニュメントや製品・特産品がある。また，ロケットの模型などを製作し，子ども達に宇宙の魅力を伝える活動をされている方や，種子島宇宙センターを舞台に芸術文化の映像作成を行う団体などもあり，身近にロケットを感じることのできる町である。そうした,いわば「ロケットのある風景」を集めた展示会を開催することで,「宇宙のまち，みなみたね」を内外に発信するとともに，郷土教育の充実に資することを目的とする。

展示の中心は，鮫島徹氏が長年かけて製作されたロケット・人工衛星・種子島宇宙センターなどの模型である。

（２）イベント

例年実施している GW イベントをはじめとする各種イベントは，新型コロナウイルス感染拡大防止のため，ほとんどが中止となった。

○ヒロウィン・ナイトミュージアム

日時：令和３年 10 月 30 日（土）

内容：例年，10 月 31 日に行っているナイト・ミュージアムは，今年度は，10 月 30 日（土）にジュニア学芸員のみを対象として行った。昨年度は屋外での実施であったが，今年度は博物館内で行い，約 150 名が仮装をして参加した。ミュージアムの照明を消し，ライトアップした館内でクイズラリーを楽しむコーナーをメインとした。全問正解すると，語り部の会が設けた「お菓子の家」コーナーで，トリック･オア･トリート！の掛け声とともに，仮装した語り部さんよりお菓子がプレゼントされる趣向を凝らした。フォトブースコーナーは，照明付きの本格的な写真が楽しめるように用意がされ，コロナ禍でイベントの少ない中，工夫を凝らした仮装に身を包み，仲良く記念写真におさまった。また，初めての試みとしてミニミニコンサートも行った。語り部の会員が奏でる素敵な音色に，参加者は「いつもと違う雰囲気の中で遺跡にふれ，芸術の秋も感じられ楽しかった。」などと感想を述べていた。

第２節　教育・普及啓発

（１）広田遺跡ミュージアム　ジュニア学芸員

ジュニア学芸員は，令和３年度はコロナウイルス感染拡大防止等の観点から，小学校３～６年生までを対象とし実施した。この事業は，種子島の歴史・文化・自然を学んでいただく教育・普及啓発事業である。所定の課程を修了した受講生には，ジュニア学芸員認定証を発行している。

ジュニア学芸員の人数

	小学生	中学生	高校生	合計
平成 26 年度	19	5	0	24 人
平成 27 年度	21	6	0	27 人
平成 28 年度	28	8	1	37 人
平成 29 年度	27	3	0	30 人
平成 30 年度	53	0	0	53 人
令和元年度	50	0	0	50 人
令和２年度	80	0	0	80 人
令和３年度	60	0	0	60 人

令和３年度活動

令和３年度は，コロナウイルス感染拡大防止の観点から，３密を避けるために，活動を午前の部と午後の部の２回に分けて実施した。

○第 1 回「開校式，古代ガラス玉作り・植物遊び」
日時：令和 3 年 6 月 26 日（土）9：30 ～ 11：30、13：30 ～ 15：30
場所：たねがしま赤米館　講師：石堂和博・小脇有希乃
○第 2 回「広田川で学ぼう，遊ぼう！」
日時：令和 3 年 7 月 24 日（土）9：30 ～ 11：30、13：30 ～ 15：30
場所：広田遺跡ミュージアム，広田海岸，広田川
講師：石堂和博・小脇有希乃・語り部
内容：広田川の対岸にある縄文時代の遺跡を体験した。子ども達は，まず一生懸命ゴムボートを漕ぎ広田川を渡り遺跡に着いた。その後，目を皿のようにして，崖に露出した土器を探した。縄文時代後期（約 3,500 年前）の市来式と呼ばれる土器を発見した児童は，「やった！みつけた！」と，喜びを爆発させていた。続いて，広田川に生息する生き物を水槽で観察した後，川の生き物採集の体験をした。その他，広田遺跡の周辺にある「ビーチロック」などの砂が固まる現象を体験してもらうため，広田海岸の砂で，ピカピカの泥団子をつくるワークショップを行った。日頃，砂遊びで作るものとは違い，固くて密度の高い泥団子づくりに，子ども達は夢中になった。
○第 3 回「古代経験をしよう！「古代フォトフレーム作り」
日時：令和 3 年 9 月 25 日（土）13：30 ～ 15：30
場所：広田遺跡ミュージアム
講師：牛野夢美
内容：ミュージアムスタッフの牛野夢美学芸員補を講師に行った。まず，フォトフレームにビーチグラスやドングリなどを貼りつけたあと，広田遺跡の貝製品とハロウィンをイメージしたイラストを描き，オリジナルのフォトフレームを作成した。続いて，ハロウィン風のランタンを製作。こどもたちの作品は，10 月 30 日に行われたハロウィン・ナイトミュージアムで展示された。
○第 4 回 ジュニア学芸員ナイトミュージアム「ヒロウィン・ナイトミュージアム」
※広田遺跡語り部の会との共催
日時：令和 3 年 10 月 30 日（土）16：00 ～ 19：45
場所：広田遺跡ミュージアム
内容：イベントの項目を参照
○第 5 回「昔の遊びを体験しよう！」
日時：令和 3 年 11 月 27 日（土）13：30 ～ 15：30
場所：広田遺跡ミュージアム
講師：平山老人クラブ
内容：平山老人クラブの高齢者 9 人（敬称略；会長平畠強，長田新一郎，長田隆幸，西田淳子，山田淳子，向井千鶴子，向井洋子，向井鈴子，崎田三枝子）を講師として，「昔のあそび」体験講座を開催。室内の遊びでは，輪ゴムとり，おはじき，貝きり，お手玉，あやとり，将棋駒倒し，けん玉などを教えた。また，屋外の遊びとしては，ダチクの葉の舟作り・竹トンボ，めんこ・コマ回し，つわうち，紙鉄砲などそれぞれが得意な昔の遊びを教えていただいた。参加した子ども達は，「コツってありますか？」などと高齢者に質問しながら夢中になって遊んでいた。昔の遊びのルールが分かってきたところで，「つわうち選手権」や「ダチクの舟選手権」などの勝負をしたところ，子ども達は一生懸命に勝つための工夫をはじめた。1 等賞となった子どもは，「葉のつけ根がやわらかいツワブキが良いよ」などと周りの子ども達にアドバイスをしていた。身近な植物など自然にあるものを利用する遊びを通して，子ども達は自ら創意工夫し深い学びへとつなげた。
第 6 回「ロケットについて学ぼう！漂流物について学ぼう！」（コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
日時：令和 4 年 1 月 22 日（土）
場所：広田遺跡ミュージアム，広田海岸
第 7 回 「閉校式ロケットについて学ぼう他！」
日時：　令和 4 年 3 月 19 日（土）
場所：広田遺跡ミュージアム
講師：語り部

（２）たねがしま古代塾

たねがしま古代塾は，地域の歴史を学び，文化財等の大切さを知ることを目的として，平成 26 年度から開講している。今年度は，コロナウイルス感染拡大防止の観点から，通年での講座募集は行わずに，感染拡大が落ち着いたタイミングで２つの特別講座を実施した。

令和３年度活動

第１回「サンゴ礁の研究からわかること～広田海岸のサンゴ礁調査～」

講師：渡邊　剛（北海道大学大学院理学研究院教授）

日時：令和３年 10 月９日（土）14：00 ～ 16：00

場所：広田遺跡ミュージアム体験学習室

第２回「Memory of currency 貨幣の記憶×広田遺跡ミュージアム」

講師：AKI　INOMATA（多摩美術大学講師）

対談者：園田　昭眞（元種子島宇宙センター所長）

日時：令和３年 12 月 23 日（木）14：00 ～ 15：30

場所：広田遺跡ミュージアム

内容：企画展「ロケットのある風景」に関連して行われた講座で，種子島宇宙芸術祭アーティストの AKI　INOMATA 氏を講師として招いた。INOMATA 氏の作品と宇宙芸術についての講演のあと，元種子島宇宙センター所長園田昭眞氏と対談を行い，南種子ならではの宇宙芸術とは何かについて，意見交換がされた。当日のダイジェストは，YouTube みなみたねチャンネルで視聴できる。

（３）学校，一般向け館利用

◯学校による館利用

・南種子中学校　子供 46 名　大人５名：令和３年５月 19 日（水）12：00 ～ 15：30　（石堂・語り部案内）

・大川小学校　子供８名　大人３人：令和３年６月４日（金）11：00 ～ 12：00（牛野）

・あおぞら保育園　子供 18 名　大人２名：令和３年７月 15 日（木）10：15 ～ 11：15（語り部）

・宇宙少年団スペースキャンプ　子供 25 名　大人４名：令和３年７月 27 日（火）9：00 ～ 9：45（語り部）

・西之表市教育委員会　子供 36 人　大人６人：令和３年７月 30 日（金）10：40 ～ 12：10（語り部）

・霧島市立向花小学校　子供 48 人　大人５人：令和３年 10 月 21 日（木）10：30 ～ 11：00（牛野・語り部）

・西之表市立伊関小学校　子供７人　大人２人：令和３年 11 月 16 日（火）10：15 ～ 12：00（豊島）

・中平小学校　子供 19 人　大人３人：令和３年 11 月 19 日（金）10：00 ～ 12：30（牛野・語り部）

・錦城学園高等学校　生徒 47 名　引率５名：令和４年１月 12 日（木）13：50 ～ 14：35（牛野・語り部）

・あおぞら保育園　子供 17 名　大人２人：令和３年２月 10 日（木）9：40 ～ 11：00（語り部）

◯一般向け館利用

・島間地区サロン８名：令和３年４月 27 日（火）10：30 ～ 11：00（牛野）

・中種子町高齢者学級 15 名：令和３年５月 20 日（木）11：40 ～ 15：00（石堂・語り部）

・西之表市立山高齢者学級 12 名：令和３年６月 10 日（木）13：50 ～ 14：50（語り部）

・中種子町古田高齢者学級 20 名：令和３年７月２日（金）9:30 ～ 10:20（語り部）

・阪急交通社　46 名　令和３年 12 月 17 日（金）14：40 ～ 15：20（牛野・語り部）

・三菱重工業 30 名　令和３年 12 月 22 日（水）10：30 ～ 11：30（石堂・語り部）

・南種子町公民館青少年育成部連絡協議会　子供 32 名　大人４名：令和３年１月７日（金）10：00 ～ 16：00（牛野・語り部）

※５月は，総合的な学びの一環で，南種子中学校１年生や大川小学校など町内の小中学生が多数来館した。子ども達は，

語り部さんの話に熱心に耳を傾け，郷土の歴史や昔の生活と知恵を学んだ。

（４）出前講座・研修・博物館実習・職場体験等

○南種子中学校職場体験　２名　令和３年５月 19 日（水）～令和３年５月 20 日（木）

内容：南種子中学校２年生が２名，広田遺跡ミュージアムに職場体験。館の清掃やガイド体験を通じて，働くことの意義を学んだ。20 日に行われた中種子町の高齢者学級を対象にした古代貝アクセサリー作りでは，高齢者の気持ちにたった支援を行うなど異年齢コミュニケーションについても体験した。

○新任教職員研修　２名　令和３年８月３日（火）

○南種子町事務職員研修　８名　令和３年 11 月 25 日（木）

第３節　管理・運営

（１）コロナウイルス感染拡大防止

コロナウイルス感染拡大防止のため，令和３年８月 14 日（土）～令和３年８月 31 日（火），まん延防止重点措置の適用に伴う臨時休館を令和３年９月１日（水）～令和３年９月 13 日（月），まん延防止重点措置延長に伴う利用制限（町民のみ利用可）令和３年９月 14 日（火）～令和３年９月 30 日（木）の期間に，それぞれ休館を行った。本館では，公益財団法人日本博物館協会による「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に準拠した「広田遺跡ミュージアムにおける新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を作成し運用している。

（２）広田遺跡語り部の会

広田遺跡語り部の会は，広田遺跡の発掘に実際に参加したり，発掘に参加した方の子孫であったり，たねがしま古代塾に参加し，島の歴史に興味をもったりした方など，10 名で結成した広田遺跡のサポーターである。館がオープンする前の，平成 26 年 12 月に結成され，それから３ヶ月間活動をした後，平成 27 年３月の館オープン以降は，広田遺跡語り部として展示案内などの館活動に参画している。

○　広田遺跡語り部の会　会員名簿

会長：長田君應、副会長：兵藤幸夫、監事：日高久則，佐伯圭子，会計：田渕川サナエ，会員：平畠強，峯山弘子，作本奈歩，名誉会長：原南海雄，ＯＢ会：長田睦郎，向井良隆，長田隆幸，顧問：羽生源志

○令和３年度の活動内容

令和３年４月８日（木）8：30 ～ 12：00
令和２年度総会，定例会

令和３年５月 12 日（水）停電作業の為中止

令和３年６月 21 日（月）9：00 ～ 15：30
南種子町内文化財研修，定例会

内容：語り部の会では，年に１回，島の文化財を学ぶ研修を行っている。今年度は，町内の太平洋戦争の戦跡などを巡った。まず，長谷有尾の煙突や海軍司令部跡，島間の文化財を見学し，茎永の宮瀬川河口の岩山につくられたトーチカを遠望した。このトーチカは，前之浜に上陸する連合軍に十字砲火を浴びせるために戦争末期につくられ，大砲が配置されたとされる。のぞき穴から前之浜を眺めると浜が一望できる。このトーチカは，岩盤をダイナマイトで爆破し，砕いて掘削し，外側をコンクリートで補強したものである。また，下中の里集落に近い前之浜海岸にも，同じように，岩山にトーチカがつくられている。

その他，下中夏田の山の斜面にある巨岩に明治二年と刻まれている，巨大な壁碑などを見学した。

令和３年７月 12 日（月）8：30 ～ 12：00
広田海岸清掃，定例会（令和３年７月 24 日のジュニア学芸員活動に向けて）

内容：広田海岸には，春の嵐で海岸に多数の漂着ゴミが流れつく。広田遺跡語り部の会では，定期的にボランティアで海岸のゴミ集めをした。副会長の兵藤幸夫さんは，「プラスチックゴミはそのまま放置すると，マイクロプラスチックとなり環境に大きな悪影響を与える。定期的に清掃を続けること

ができれば。」と感想を述べていた。
令和３年８月 12 日（木）８：30 ～ 12：00
定例会
令和３年９月 21 日（火）８：30 ～ 12：00
定例会
令和３年 10 月７日（木）８：30 ～ 12：00
ハロウィンイベントに向けての話し合い，
定例会
令和３年 11 月２日（火）８：30 ～ 12：00
ハロウィンイベントの反省，定例会
令和３年 12 月７日（火）８：30 ～ 12：00
定例会
令和３年 12 月 14 日（火）18：30 ～ 21：
00　歓送迎会・忘年会・ハロウィン反省会
場所：八作
令和３年 12 月 27 日（月）８：30 ～ 12：
00　門松製作
内容：毎年正月に，広田遺跡語り部の会で，
広田集落伝統の門松を館の入口に立てる。
広田の門松は，まず，クロバーの木を芯木
にする。続いて，マツ・ユズリハ・シイ・
タケを芯木に結わえ，割り木で囲む。最後
にしめ縄を結び，ダイダイ，ウラジロなど
を飾り，真砂をまく。
令和４年１月 11 日（火）８：30 ～ 12：00
門松撤去，定例会
令和４年２月８日（火）コロナウイルス感
染拡大防止の観点から中止
令和４年３月８日（火）　定例会
その他の活動：恒例となったハロウィン・
ナイトミュージアムの準備を行った。参加
する児童が楽しみながら遺跡の魅力に触れ
てもらえればと，語り部がそれぞれに工夫
を凝らした展示やクイズラリーなどを準備
した。

（３）視察・研修・職場体験
○行政視察等
令和３年６月 23 日　11:00 ～ 16:30
中種子町教育委員会・文化庁　３名
令和３年６月 25 日　11:00 ～ 12:00
関初美 (トンミー大使)　５名
令和３年７月３日 13:00 ～ 13:30
姶良市教育委員会　４名
令和３年７月６日　上野原縄文の森　職員
２名
令和３年 11 月３日　13:30 ～ 14:40
町教育長他　２名
令和３年 12 月４日　9:00 ～ 10:00
県観光連盟　３名
令和４年１月 27 日　13:30 ～ 14:00
副町長，企画課長

○職員研修
・奈良文化財研究所「遺跡 GIS 過程」(リモー
ト)
受講者（石堂），令和３年 11 月 15 日～ 19
日

（４）広報
○町広報紙「広田遺跡ミュージアムだより」
毎月連載
○ ZAKZAK による情報発信
・タイトル【桂春蝶の蝶々発止。】種子島で
挑戦した落語のＶＲ収録　海食洞窟や国史
跡が舞台自粛中の娯楽に。
○インターネット動画配信サイト
メディア：YOUTUBE　桂春蝶公式チャンネ
ル「桂 春蝶チャンネル」による情報発信
内容：コロナ禍で明るい話題が少ない中，
落語家の三代目桂春蝶氏が，以前訪れた種
子島の美しい自然と豊かな歴史を舞台に落
語を収録・映像公開することで，日本の皆
様に元気を届け，励ますことができればと４
月 14 日に広田遺跡で撮影を行なった。VR
映像演題は「ご先祖様」で，卑弥呼などの
歴史上の人物が次々と登場し，笑いの渦と
なるとても面白い内容となっている。また，
落語としては初となる 360 度 VR カメラで
撮影された映像で，VR ゴーグルを使うこと
で，その場にいるような臨場感で視聴でき
る。また，撮影の様子は YouTube の「種子
島みなみたねチャンネル」でも公開されて
いる。
・動画タイトル「ＶＲ 360 落語【桂 春蝶「ご
先祖様」＠種子島・広田遺跡 STAGE 8K 3D
VR 撮影　約 20 分】ASTRO MEDIA210421
版」
メディア：YOUTUBE　文化庁公式チャンネ
ル「bunkachannel」による情報発信

・動画タイトル「【文化庁発】遺跡から地域の魅力を発掘！「いせきへ行こう！」vol.7（2021 年夏番外編）人と遺跡と宇宙がつながる南の島～鹿児島県南種子町～」
メディア：YOUTUBE　南種子町公式チャンネル「種子島みなみたねチャンネル」による情報発信
・動画タイトル「南種子町の知る人ぞ知る！？文化財パート①」
・動画タイトル「南種子町の知る人ぞ知る！？文化財パート②」
・動画タイトル「広田遺跡特別講座「Memory of currency　貨幣の記憶 ×広田遺跡ミュージアム」
○書籍
・「『いせきへ行こう！』－遺跡から地域の魅力を発信する試み－」芝康次郎（文化庁調査官）『月刊文化財 2021 年 12 月号』P42-43
・『琉球の考古学』，宮城弘樹（沖縄国際大学准教授），敬文社
・『古代史の「舞台」を歩く』 宝島社
○ホームページ，PDF，パンフレット
・文化庁公式ホームページ　文化財に関するパンフレット「未来に伝えよう文化財」にて，広田遺跡での活用事例が写真で紹介
○広田遺跡語り部の会によるフェイスブック・インスタグラムでの情報発信，ホームページの作成

（５）文化財の保存・管理
重要文化財の運搬
　広田遺跡は，H-ⅡA 及び H-ⅡB ロケットの警戒区域に設定されているため，文化庁美術学芸課の指導により，ロケットの打ち上げの際に重要文化財を南種子町立埋蔵文化財センターに搬出することとなっている。
令和３年５月 14 日 (金)　館内長期停電に伴う搬出　対応：石堂・小脇
平成３年５月 18 日 (火)　館内長期停電復旧に伴う搬入　対応：石堂・小脇
令和３年 10 月 25 日 (月)　ロケット打ち上げに伴う搬出　対応：石堂・小脇
平成３年 10 月 26 日 (火)　ロケット打ち上げ終了に伴う搬入　対応：石堂・小脇
令和３年 12 月 22(水)　ロケット打ち上げに伴う搬出　対応：石堂・小脇
平成３年 12 月 23 日 (木)　ロケット打ち上げ終了に伴う搬入　対応：石堂・小脇

（６）防火・防犯訓練
行事名：広田遺跡ミュージアム消防訓練
日　時：令和４年２月３日
場所：広田遺跡ミュージアム
○実施内容
・訓練の想定
広田遺跡ミュージアム高圧電気室からの漏電失火により，広田遺跡ミュージアム及び同館重要文化財収蔵庫に延焼する恐れがあると想定。来館者の避難誘導，防火扉の機能確認等。
・訓練の内容
広田遺跡ミュージアム職員による火災発見，通報，初期消火（消火器），重要文化財防火扉の機能確認，来館者の避難誘導訓練を実施。消火器の模擬訓練。
・参加者及び役割分担
広田遺跡ミュージアム職員（３人）：通報，初期消火，重要文化財防火扉の機能確認，来館者の避難誘導。消火器の模擬訓練。広田遺跡ミュージアムボランティアスタッフ（１名）：来館者の避難誘導補助
熊毛地区消防組合南種子分遣所：放水訓練，講評等を予定していたが，新型コロナウイルス感染拡大防止のため不参加となり，電話での指導となった。
南種子町教育委員会（４名）：現場立会い及び講評，助言。
・特に工夫した点
広田遺跡ミュージアムのボランティアスタッフにも参加いただき，館内にいる人員が共通理解のもと，防火・防災活動を行えるよう工夫した。初期消火の重要性を理解するため，消火器を使った模擬訓練を実施した。コロナ対策で，訓練参加者はマスクを着用するとともに，三密を避けながらの適切な訓練に努めた。
・問題点・課題
コロナ感染拡大防止の観点から，ボランティ

アスタッフの参加人数を制限して行うこととなった。本来は，全てのスタッフで防火訓練に取り組むのが理想である。未参加のボランティアスタッフについては，コロナの状況をみながら，ボランティア活動で一同に集合した際等に，別途防火訓練を行う予定である。

・その他

ボランティアスタッフなどを含んだ，できるだけ多くの館の運営関係者とともに，毎年文化財防火デーにあわせて消防訓練を行うことで，文化財保護の意識を高めるとともに，適切な防火・防災活動を実施できるよう今後もつとめたい。

訓練風景

消防点検：令和 3 年 12 月 28 日（火）実施済み

第 4 節　調査・研究

（1）調査・研究

◯調査等

4 月 3 日　種子島宝満神社の御田植祭調査（石堂，小脇）

4 月 25 日　鹿児島民俗学会口頭発表（石堂）

5 月 1 日　オオツタノハ貝生息調査（忍澤成視氏来島）

5 月 21 日　田中竹千代家旧家調査（石堂，牛野）

6 月 1 日～ 2 日　文化庁芝康二郎調査官，横峯遺跡・広田遺跡ミュージアム等視察・調査

7 月 7 日　金沢大学内山先生調査対応

7 月 10 日　鹿児島大学高宮広土教授科研に伴う調査協議

7 月 12 日　文化庁「いせきへ行こう！」撮影

9 月 24 日　西村織部丞関係調査（西之表市遺族）

9 月 29 日　鴨猟シンポジウム打合せ

10 月 5 日～ 10 日　北海道大学渡邊剛先生サンゴ礁調査対応

11 月 4 日～ 7 日　種子島の盆踊調査

11 月 14 日～ 16 日　種子島の盆踊調査

11 月 23 日　九州大学桑畑先生資料調査対応

12 月 7 日～ 8 日　奈良文化財研究所森先一貴氏調査対応

令和 4 年

1 月 13 日～ 16 日　種子島の盆踊調査

1 月 17 日　砂坂孫左衛門の碑調査

3 月 3 日　国立歴史民俗博物館藤尾慎一郎教授，国立科学博物館篠田謙一教授　来館，科研費研究に伴う広田遺跡南区 2 号人骨の分析成果について報告及び協議

◯講演・論文等

・シンポジウム「種子島先史時代のシンポジウム　先史時代種子島の謎」

主催：鹿児島大学

日時：令和 3 年 10 月 23 日（土）13 時～ 17 時

講師：石堂和博（広田遺跡ミュージアム学芸員）

演題：「種子島の先史文化にみられる生業の特徴と変遷」

論文

・季刊考古学 158 号　2022 年 1 月「考古学・埋蔵文化財と地域史研究との関係性 - 南種子町 -」石堂和博

研究報告　「島間の四方祭について」

南種子町文化財保護審議会・広田遺跡ミュージアム協議会　副会長　柳田　和則
広田遺跡ミュージアム　学芸員　石堂　和博

1．はじめに

島間の四方祭（しままのしほうまつり）は，下野敏見氏によると「島間中の神社のはじまりの祭り」とされる宮松原神社で行われる祭で，下野は，「四方祭」と「潮祭」の両者の呼び方があるとし，その祭りの性格から「潮祭」の呼称を採用している。また，昔は，旧八月一日の「たのみのせく」の際にも，宮松原神社へ参詣して踊り（エビス奉納踊り）も行われていたという（註 1)。本論では，保護団体である島間地区自治公民館が現在採用している名称である「四方祭」を使用する。宮松原神社は，鹿児島県種子島，南種子町の大字島間字今出川に所在する神社で，明治四十四年につくられた日高圓碩の撰による縁起書が伝わる。本論は，宮松原神社で今も行われている四方祭（潮祭）と，この神社の縁起書及び神社に合祀されている恵比須について紹介したい。

2．宮松原神社の概要

宮松原神社には，恵比須が合祀されている。宮松原神社の祭神は，神社縁起書によると少彦名命（すくなひこなのみこと）である。宮松原神社は，神社庁への登録はされていないが，島間中の神社を管理する島間岬神社の神主である上妻林太郎氏によると祭神は，大国主命とされる。神社には社殿はなく，島間浦の恵比須様が合祀され，こちらには社殿がある。そのほか，３つの恵比須様が合祀されている。宮松原神社の御神体は，増田層に伴う２メートル四方ほどの化石を含む岩体である。この御神体には，ある人によると豊漁の際には，割れ目に魚をかませて，豊漁を感謝するというから，恵比須様と宮松原の神様は同一視されている側面も認められる。

3．島間の四方祭（潮祭）

現在は，1 月 25 日に行っている。西之の潮祭りのように 4 箇所でするのではなく，宮松原神社だけで行う。

島間地区の公民館長が主催者で，祝殿（ほいどん）をやとって祭りをする。祭りを行う具体的な場所は，宮松原神社の恵比須様の横にある多くの石を積んだ所で，お賽銭のかわりに石を１つずつ目の前の浜から拾ってきて供える。祭りの最後には，島間浦でとれた魚の刺身を一切れずついただくことになっているが，刺身には調味料をつけない。この潮祭りでは，羽生源志氏によると大きく以下の３つのことを祀るとされる（註 2)。

① 四方拝：年のはじめに行われる祭り。天下泰平，区民安寧，国土安穏，五穀豊穣，商売繁盛を祈願
② 潮祭り：潮害・塩害からまもる祈願祭
③ 恵比須祭:豊漁，商売繁盛，五穀豊穣，魔除けを祈願する祭り

なお，これらを祈願するものの，特別な願ほどきの行事は現在行われていない。参加者は，島間地区公民館長，副館長，会計，島間浦の浦長，神社総代，島間集落公民館長等で，その他として島間駐在所，島間小学校長，地元選出町議会議員などの名士にも声をかける。神事は，降神の儀･献饌の儀･祈願・昇神の儀で構成される。

なお，昭和三十年頃の潮祭りについて，下野敏見氏は次のように紹介している。「島間では新二月二十五日にシオ祭りを行う。これは島間中の神社のはじまりの祭り。島間中の安泰を祈る。宮松原のエビス神社のそばの山の中にある石の所で，神官をたのんでまつる。浜から役員の人達が石を一つずつ持っていって供えて祀る。シオ祭りでは，オットコ主命，コトシロ主命，水ハミの神，ミクハリの神，豊受の神，山の神を招神してまつる。祭りの時，正油のつかない魚を一キレずついただく。そしてナオライになる。直会は，田尾，仲之町，上方，小平山の四ケ部落が交代で世話する。この

日は食いかぎり，いくらくっても良い。めでた節も歌う。但し，参加者は氏子総代一人，町頭二人（以上，四ケ町で十二人），ホイドン一人，シオ祭りの当人四人，供物は米，シオ，コロビ，トコロ，大豆，潮井（シュエイは，浜のモを海につけて，それを持って行って，竹を割ってひっかけて立てる）。直会は当人の部落の当人の家で費用は町負担で行う。此のシオ祭りは，大字島間全体の祭りであって，浦の者だけの祭りではない。シオ祭りは，西之本村，下中，阿高磯，茎永でも行い，潮害を防ぐシオ祭りになっている。島間のシオ祭りも同主旨が本来の祭りであったろう。（註 3）」

4．聞き書き調査の成果

2020 年 1 月 25 日に行われた島間の四方祭の際に，柳田和則と石堂和博の 2 名で聞き書き調査を行った。主に，この行事を主催する島間地区公民館の館長である船川継人氏と館長経験者であり年長者である柳田博氏に主に話を聞き，各集落での取り組み等については，その場に居合わせた各集落公民館長に確認した。以下は，聞き書き内容である。

四方祭は，島間中の最初の祭り，はじまりの祭りで，地区民の 1 年間の安泰などを祈願する，願掛けを行う。祝詞にもそのようにかいてある。1 月 25 日という日は昔から決まっている。その日が平日でも日をずらさずに行う。祭りの主催は，地区公民館。漁協長などは招待者である。柳田博氏は，昭和 56 年に種子島に帰ってきた時から参加しているが，祭りの方法はかわっていない。当時から集落公民館による輪番制だった。今年は 11 時から行い，直会は 12 時頃から小平山公民館で行った。割り当てがあり，集落が輪番で会計を担当する。来年は向方で，今年は小平山。5 年に 1 回，順番がまわってくる。小平山→向方→大久保→仲之町→田尾の順である。予算は島間地区自治公民館から 4 万円でる。案内状は地区館長名で出す。準備は当番集落と，地区で行う。なお，豊受神社は上方，大久保，向方で管理。岬神社は，仲之町・田尾で管理。宮松原神社の管理は島間地区が行う。上妻林太郎氏によると，この祭りでは，浜の石を拾い供える。潮をかぶっている石がよい。めいめい拾ってくる。お賽銭のかわりである。まつりが始まる前にめいめいが拝んで石を置く。

神事・お神酒・おせんまいとコモチのかわりに，エビスの祭りでもあるので，生のサシミをそなえる。サシミに醤油や味付けをしてはいけない。ぶえんのさしみを一切れずつ，参加者にふるまう。

関連する文化財の聞き書きとしては，文化財の由来の石碑は，柳田博氏が地区公民館長の時に，5 本松，エビス，上妻城，宮松原，貫門，火合峯，大塚様の 7 か所にたてた。小平山には，ヨーザクイゼと，モンシーイゼ，ともうひとつで，３つのイゼが塚川の上流にあった。タギーコーの川に新イゼはある。タギーコーは谷切川のこと。タニキリガワではなく，タギーコーと呼んでいる。辻札・シュエ―については，ハツギトウの時にする。1 月 1 日。2 ～ 3 メートルの距離から弓でマトをうつ。マヨケのまと。向方・大久保ではハマという。ハマとヤ。上方では 8 か所におく。小平山は 6 か所。仲之町は 4 か所。マトは転がす。マトはカズラでできている。小平山は滝口神社でする。マトに矢が通過したら，決まった場所にマトを置く。辻札と海藻もつける。弓と矢と的と海藻。浜によっている藻をつける。お札はホイドン。ニガダケにはさむ。島間仲之町は本妙寺が木札をくれる。マトにすきまがあいているのは矢がとおるため。すきまをあけてマトをつくるのがむずかしい。小平山は 12 月 30 日に集落の役員で，マトなどはつくる。こうした辻にたてるものを小平山でも，田尾でも，仲之町でもシュエ―という。笹竹でツトをつくり，浜の砂利などをいれる。海の藻をつける。浜によって来る。仲之町では，玉藻（ホンダワラ）をつけるとよいときく。子孫繁栄のために玉がついている藻がよいため。台風の時にたくさん海に寄るので，今では，台風の時に拾って冷凍庫で冷凍して準備している。昔はたくさん寄ったが，今はこの藻が寄ることが少なくなった。シュエーは田尾は 3 か所にたてる。ヤ

スジの倉庫前と 1 本松と掲示板のところ。

5．宮松原神社境内の恵比須様

宮松原神社境内の恵比須様は，昔，島間浦の中心であった稲子泊にあり，ついで宮松原に移されたが，島間浦の中心が，仲之町にうつると，宮松原では遠いことから，大正年間頃に仲之町の字新町に移した。昭和の初めころには，志布志の漁師が仲之町に一定期間滞在して漁をしていたが，この恵比須様が大変ご利益があり，魚を招いてくれるということで，盗み出し，志布志にもってかえってしまったことがあった。島間浦の漁師は，これは大変だということで，夜闇に紛れて取り戻しに行き無事取り戻したのだという（鮫島正孝氏談）。だが，ここも近くに墓地があってよくないということになり，昭和三十年に現在地である宮松原神社境内に移されている。このほかにも，稲子泊の高瀬の神，シャンキイバアの神も移されている。また，西之宮の恵比須様（仲之町田中家）も合祀されている（註 4）。神社の入口には，次の碑文が刻まれた砂岩製の高さ 1 メートル強の，万の供養塔が 3 基建てられている。

○明治三十三年巳冬　頭取　豊島
　紀年石文□万能ノ供養
　十二月二十七日
○明治二十六年　巳冬　浦人民中
　頭取　元川覚□

小西□□
　奉納　小魚万能ノ供養之石
○明治三十九年　紀念文　鰯魚供養
※鰯魚は，トビウオ

6．宮松原神社縁起記載の宮址と化石

日高圓碩の撰による宮松原神社縁起は，明治四十四年にかかれ，縁起には次の一文がある。

・砂中（すなはま）に経緯（たてよこ）数百尺の埋木あり，化（かわ）りて石と成れり
・宮址（みや）の古墟（あと）を宮間津原と名づく，今にいたるまで遺跡（あと）猶うつくしくてあり

まず，宮松原神社のそばにあったという埋木の化石について考えたい。この化石について，鮫島正孝氏によると，氏が 10 代前半の頃までは，宮松原神社の横を流れる今出川の川底に樹の化石をみることができたという。また，現在も今出川の川底には，化石層が露出している。この化石層は，増田層の一部で，現在もこの川の河口より北側の浜に多数露出している。おそらくは，当時も増田層の一部が露出しており，そのことを記述したものだろう。なお，先述したとおり増田層の化石の岩体は，宮松原神社の御神体となっている。

つづいて，宮址についてであるが，この宮址と推定される場所は，現在の宮松原神社の北側約 40 メートルの位置にある。10 メートル四方の平坦な面と数メートルの平坦な面の二面の平坦面が認められる。これらの平坦面の端には，数十㎝の浜の円礫を並べて区画を形成している。数メートルの平坦面には，蘇鉄が二本植わっていて，祀りの場であったことを伺わせる。なお，鮫島正孝氏が十数年前にこの場所を調査した頃は，祀りに使われた器が散在していたらしい。

これらの事実は，宮松原神社縁起に記載されていることが，一定の信頼性をもつことを示している。

7．まとめ

島間の四方祭は，新暦の 1 月 25 日に行われる年中行事で，島間地区の神社のその年の始まりの祭りであり，地区の安泰を祈る重要な祭りとされている。この祭りは，島間地区公民館が主催し，集落公民館が輪番で役を受け持ち行われている，区民の代表が総出で催す祭りである。祭りの場は，宮松原のエビス神社の隣にある，大きな異形の化石塊とその前面に積まれた浜石の石塚の周辺である。参加者は，お賽銭のかわりに浜石を供えるという古い慣習を行うので，年々，積み石の石塚は高さを増していく。祭りでは，積み石を祭壇とし，祝殿（ホイ

ドン，神主のこと）が祭祀を司る。神事が終わると，参加者は醤油などの味付けを一切しない，無塩の魚の刺し身を一切れずついただく。その後，直会が行われるが，直会は，輪番で当番となった集落公民館が世話をする。

四方祭は，潮祭などとも呼ばれ，潮害防止など様々な意味が込められ，町内各地で行われてきた。中でも島間の四方祭は，昔ながらの四方祭・潮祭の姿をそのまま残す年中行事で，本町における生活の推移の理解のために欠くことのできないものである。

(引用文献)

註１　下野敏見　1962　種子島民俗調査報告　種子島漁業習俗　種子島科学同好会発行
註２　羽生源志　2010　南種子の散歩道(故事と四方山話)　南種子町地名研究会
註３　下野敏見　1962　種子島民俗調査報告　種子島漁業習俗　種子島科学同好会発行
註４　南種子町郷土誌編纂委員会　1987　南種子町郷土誌　南種子町

写真１　島間の四方祭

写真２　玉串奉奠

写真３　供物
無塩の魚の刺し身

写真４　無塩の魚の刺し

写真５　浜石を供える

写真６　聞き書き調査

写真７　宮松原神社

写真８　祭りの場

写真９　３つの石塔

写真図版１

写真１　落語「ご先祖様」

写真２　語り部の会文化財巡り

写真３　語り部の会海岸清掃 ①

写真４　語り部の会海岸清掃 ②

写真５　語り部の会門松作り

写真６　完成した門松と語り部の会

写真７　ハロウィンの準備

写真８　ジュニア学芸員植物で遊ぼう

写真図版２

写真 9　ジュニア学芸員川で遊ぼう ①

写真 10　ジュニア学芸員川で遊ぼう ②

写真 11　ジュニア学芸員ピカピカ泥団子

写真 12　ジュニア学芸員笹舟づくり

写真 13　ジュニア学芸員昔の遊び ①

写真 14　ジュニア学芸員昔の遊び ②

写真 15　ヒロウィンナイトミュージアム ①

写真 16　ヒロウィンナイトミュージアム ②

写真 17　ヒロウィンナイトミュージアム ③

写真図版３

写真 18　ジュニア学芸員ハロウィンランタン

写真 19　職場体験

写真 20　ロケットのある風景展示 ①

写真 21
ロケットのある風景展示 ②

写真 22　ロケットのある風景展示解説

写真 23　特別講座の対談風景

写真 24　特別講座（渡邊剛先生）①

写真 25　特別講座（渡邊剛先生）②

写真図版４

ロケットのある風景ポスター

南種子町郷土館　館報

南種子町郷土館　館報　目次

第１章　郷土館の概要

第１節　沿革 …… P23 ～ 24
第２節　館日誌 …… P24
第３節　概　要 …… P25
第４節　館の組織 …… P25
第５節　利用状況 …… P26 ～ 27
第６節　関連条例・規則等 …… P27 ～ 28

第２章　館の事業

第１節　展示 …… P29 ～ 30
第２節　体験学習 …… P30 ～ 32
第３節　資料収集 …… P32 ～ 33
第４節　資料整理 …… P33 ～ 36
　南種子町の郷土芸能・文化財関係 DVD ビデオ一覧
第５節　企画展紹介 …… P37 ～ 47
　「長谷の歴史　長谷開拓 75 周年記念展」

第 1 章　郷土館の概要

第 1 節　沿革

昭和 44 年　2 月 28 日
町立博物館設置準備委員を委託
昭和 44 年　3 月　7 日
第 1 回町立博物館設置準備委員会
昭和 44 年　3 月 25 日
資料収集協力員と準備委員との合同会
昭和 44 年　4 月 14 日
第 2 回町立博物館設置準備委員会
昭和 44 年　5 月 16 日
第 3 回町立博物設置準備委員会
昭和 44 年　6 月　7 日
第 4 回町立博物館設置準備委員会
昭和 44 年　9 月 13 日
第 5 回町立博物館設置準備委員会
昭和 44 年 11 月　1 日
大曲の宇宙ケ丘公園に，「南種子町立南島民俗博物館」として開館
昭和 44 年 11 月 17 日
第 6 回町立博物館設置準備委員会（最終）
昭和 61 年　3 月　5 日
旧国民保養センターを改装して「南種子郷土館」として開館
平成 19 年　2 月　1 日
旧郷土館の老朽化に伴い，旧公立種子島病院跡に一時移転して開館

平成 21 年度

館内の広田遺跡展示室を改修工事（4 月 30 日）

平成 24 年度

社会教育課とともに，郷土館も旧南種子高等学校跡（南種子町中央公民館に改称）に移転して開館
郷土館＆図書館合同企画「紙芝居（鉄砲大騒ぎ）を見て～割りばし鉄砲を作ろう！あそぼう！」を開催
町立平山小学校総合的な学習の時間「古代料理づくり」「貝をつくったアクセサリーづくり」の講師として出前授業
鹿児島県「蒲生小学校」勾玉づくり体験学習実施
ミニ企画展「インギー鶏～僕たちを育ててくれた皆さん」開催

平成 25 年度

企画展「県指定記念！インギー鶏展」開催
ミニ企画展「ジオラマで見る昔の人々の暮らし」開催
郷土館＆図書館合同企画「紙芝居～ブンブンゴマづくり＆遊び体験」開催
ミニ企画展「ウミガメ展」開催
町内 4 校宿泊学習「勾玉づくり」出前授業

平成 26 年度

企画展「平成 26 年度新収蔵資料展」開催
企画展「戦後の長谷開拓」開催
企画展「県指定文化財　種子島南種子町宝満池鴨突き網猟」開催

平成 27 年度

企画展「塩と塩づくり」開催
企画展「砂糖と砂糖すめ」開催
町立中平小学校 5 年生宿泊学習「勾玉づくり」出前授業

平成 28 年度

社会教育課が本庁舎へ移転，郷土館の事務所と上中児童クラブが併設
企画展「平成 28 年度新収蔵資料展」開催
企画展「様々な畜力労働で活躍した馬の鞍展」開催
企画展「山本直純展」開催
茨城県立水戸農業高校研修「幻の鶏～インギー鶏を見に行こう！」の講師として寺内昭徳氏鶏舎・町立花峰小学校で出前授業

平成 29 年度

広田遺跡ミュージアム＆郷土館ゴールデンウイーク合同企画「昔の子供のあそび体験」指導者として広田遺跡ミュージアムへ出向
町立中平小学校 5 年生宿泊学習「勾玉づくり」出前授業
町内 4 校宿泊学習「ヤコウガイのアクセサリーづくり」出前授業
広島県「沼田小学校」勾玉づくり体験学習実施

平成 30 年度

企画展「（故）森越功先生（森越医院院長）寄贈資料展」開催

企画展「昭和のふるさと写真展」開催

令和元年度

企画展「歌声の響（天皇・皇后両陛下作詞作曲）」の楽譜公開展開催

企画展「令和元年度新収蔵資料展」開催

企画展「日高稔典氏寄贈資料展」開催

令和 2 年度

山本直純氏寄贈資料「楽譜・レコード・書物等」の整理

企画展「南種子の民俗芸能展」開催

令和 3 年度

「２階民俗収蔵室」の収蔵資料カード作成

令和３年度　企画展「令和３年度新収蔵資料展」開催

ミニ企画展「ウミガメ展」開催

ミニ企画展「宝満池鴨突き網猟展」開催

令和３年度　企画展「長谷の歴史［長谷開拓 75 周年記念展］開催予定

ミニ企画展［インギー鶏パネル展示］開催予定

第 2 節　館日誌（令和 3 年度）

令和３年 4.14 小脇サツ子氏寄贈資料収集
ワキ鋸（１点）

5.19 館設置消防設備点検

7. 1 企画展「令和３年度新収蔵資料展」開催
「ウミガメ展」パネル展示開催
都貴美夫氏寄贈資料収集：
マルチ音楽プレーヤー・レコード（1 式）

7. 6 屋上防水工事

8.14 新型コロナウイルス感染拡大防止のため，8月14～9月12 日まで休館

9.14 新型コロナウイルス感染拡大防止のため，当面，入館者を南種子町民限定で開館

9.24 西村貞則氏寄贈資料収集
西村時員関係の遠矢碑の木碑（1 点）・八幡神社への寄進札（1 点）

9.30 中畠伝氏寄贈資料収集
特務艦志自岐遭難に関する資料のコピー（1 点）

10.1 本日より通常開館

11.19 茎南小学校 1 ～ 2 年生来館
「宝満池鴨突き網猟展」パネル展示開催

12.22 館設置消防設備点検

1.17 展示室シロアリ駆除

1.18 島間小学校３・4 年生来館

1.21 事務所シロアリ駆除

3. 4 中平小学校３年生来館
避難訓練実施

3. 1 企画展「長谷の歴史＝長谷開拓 75 周年記念展」開催
「インギー鶏展」パネル展示開催

第 3 節　概要

1. 博物館の名称　：南種子町郷土館
2. 博物館の所在地：熊毛郡南種子町中之上 2420-2
3. 設立年月日　　：昭和 61 年 3 月 5 日
4. 設置者の名称及び住所
   設置者：南種子町
   設置者住所：
   鹿児島県熊毛郡南種子町中之上 2793-1
5. 博物館の種別：人文系博物館（民俗・歴史等）
6. 収蔵資料:民俗 2,174 点･民俗芸能 499 点･歴史 118 点・山本直純寄贈関係 1,129 点・地学 32 点・動物 21 点・植物 1 点
7. 施設の状況：中央公民館・図書館・埋蔵文化財センターを含む複合施設・郷土館常設展示室 269㎡・特別展示室 21㎡・収蔵室 63㎡
8. 職員構成　：館長 1 名（兼任）・係長 1 名（兼任）・学芸員 2 名（兼任）・庶務係 1 名（兼任）・管理員 1 名（専任）
9. 開館及び休館日
   開館時間：午前 9 時～午後 5 時
   入館料　：無料
   休館日　:毎週月曜日･毎月第 4 金曜日（資料整理日）12 月 28 日～翌年 1 月 4 日

第 4 節　館の組織

（1）館職員名簿

役　　職	令和 3 年度
館長（兼任）	園田一浩（社会教育課長）
係長（兼任）	石堂和博（文化係・広田遺跡ミュージアム学芸員）
学芸員（兼任）	豊島巧・小脇有希乃（広田遺跡ミュージアム学芸員）
庶務係（兼任）	吉本利江
文化施設管理員補助 (専任)	保坂洋子

（2）南種子町郷土館管理委員会 委員名簿

役　　職	令和 3 年度
委員長	柳田　和則
副委員長	宮里　照夫
委員	大脇　光矢
委員	向井　良隆
委員	野首　久教

開催日：令和 3 年 4 月 27 日
場所 : 南種子町中央公民館第一会議室
協議：入館者状況，令和 3 年度事業報告，令和 4 年度事業計画，令和 3 年度年報

第５節　入館者状況

（１）過去の入館者状況

年　度	幼児	小学生	中学生	高校生	大学生	一般	計	町内	島内	島外
昭和61年３月５日 ～平成７年度	9,254					11,203	20,457			
平成８年度		535	64	27	28	553	1,207	400	807	
平成９年度		438	89	16	8	530	1,081	497	584	
平成１０年度		132	18	13	4	277	444	201	243	
平成１１年度		282	133	8	10	461	894	583	311	
平成１２年度		205	52	21	6	571	855	509	346	
平成１３年度		194	26	31	34	532	817	347	470	
平成１４年度		563	103	3	15	551	1,235	598	637	
平成１５年度		281	43	12	17	422	775	441	334	
平成１６年度		496	44	3	38	554	1,135	741	394	
平成１７年度		235	8	3	23	365	634	367	267	
平成１８年度		220	19	7	25	562	833	407	426	
平成１９年度		326	69	40	32	641	1,108	625	483	
平成２０年度		290	67	76	30	631	1,094	548	546	
平成２１年度		312	51	20	30	678	1,091	610	481	
平成２２年度		390	22	8	10	608	1,038	537	501	
平成２３年度		317	20	7	14	506	864	519	345	
平成２４年度	11	352	39	7	31	399	839	546	60	233
平成２５年度	47	345	3	2	10	437	844	592	62	190
平成２６年度	30	234	18	43	2	392	719	531	39	149
平成２７年度	15	183	1		6	376	581	412	39	130
平成２８年度	54	425	130	22	13	540	1,184	773	161	250
平成２９年度	33	811	22	166	7	686	1,725	1,015	187	523
平成３０年度	29	509	147	6	18	745	1,454	891	261	302
平成３１年度 （令和元年度）	13	535	13	5	5	553	1,124	864	27	233
令和２年度	8	280	6	3	1	391	689	538	39	112
累計							44,721			

（2）令和3年度入館者状況（1月末時点）

月　別	幼　児	小学生	中学生	高校生	大学生	一　般	計	町　内	島　内	島　外
4月	1	23	0	0	0	32	56	37	2	17
5月	2	5	9	1	0	28	45	30	0	15
6月	1	2	0	0	0	18	21	16	1	4
7月	0	18	2	0	0	44	64	48	6	10
8月	4	10	1	0	0	13	28	14	9	5
9月	0	1	0	0	0	9	10	0	0	10
10月	1	9	0	0	0	31	41	22	6	13
11月	0	7	2	0	1	49	59	40	1	18
12月	3	2	0	2	0	36	43	24	5	14
1月	1	14	3	0	0	63	81	35	3	43

第6節　関係条例・規約等

南種子町郷土館管理運営規則

昭和60年4月1日
教育委員会規則第1号

改正　昭和61年4月10日教育規則第1号
昭和63年3月10日教委規則第1号
平成　4年6月26日教委規則第2号

第1章　総則

（目的）

第1条　この規則は，南種子町郷土館の設置及び管理に関する条例（昭和60年南種子町条例第7号以下「条例」という。）第9条の規定に基づき，南種子町郷土館（以下「郷土館」という。）の管理運営について必要な事項を定める。

（休館日）

第2条　郷土館の休館日は，次のとおりとする。

（1）　毎週月曜日
（2）　1月1日から1月4日まで，12月28日から12月31日まで
（3）　展示物の整理日（毎月第4金曜日）
（4）　前各号に掲げるほか，臨時に休館する日

（開館時間）

第3条　郷土館の開館時間は，休館日を除き，毎日午前9時から午後5時までとする。ただし館長は，これを変更することができる。

（入館者の制限）

第4条　次の各号の一に該当すると認めた者は，入館を許可しない。

（1）　館内の風紀を乱し，又は，静粛を害するおそれがある者
（2）　前各号に掲げる者のほか，入館させることが，適当でない者

（館内の秩序維持）

第5条　利用者は，館内において次の事項を守らなければならない。

（1）　展示資料に手をふれないこと。
（2）　静粛を旨とし，高読・高段その他騒がしい行為をしないこと。
（3）　館内を汚損し，又は喫煙をしないこと。
（4）　その他係員の指示に従うこと。

（秩序時間に関する制限）

第6条　館長は，次の各号に該当する者が，あるときは，利用の許可を取り消し，制限し，又は退館を命ずることができる。

（1）　前条の規定に違反した者
（2）　資料の利用に関し，この規則に違反した者

（損害賠償）

第７条　条例７条に規定する損害の賠償は，現状回復又は，現物をもってしなければならない。

２．前項に規定する場合において，現物の入手が特に困難と認められるときは，館長が指定する代物をもって賠償することができる。

第２章　管理運営

（職員）

第８条　郷土館に館長及び必要な職員を置く。

（職務）

第９条　館長は，上司の命を受け職務を挙理し郷土館の任務の達成に努める。

２．職員は，館長の命を受け館務にあたる。

(管理委員会の設置)

第10条　例第４条第２項の規定により郷土館管理委員会（以下「管理委員会」という。を設置する。

（所掌事務）

第11条　管理委員会は，資料の収集・保管。展示等に関し，教育委員会の諮問に答え，又は意見を具申し及びこのために必要な調査研究を行う。

（組織）

第12条　管理委員会は，委員５名以内をもって組織する。

２．管理委員は，学識経験者の中から教育委員会が任命する。

３．管理委員の任期は，２年とし，再任を妨げない。ただし，補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

４．管理委員会に互選による委員長，副委員長を置き，委員長は会議を総理する。

５．会議は委員長が招集し，委員の過半数をもって成立する。

６．前項に定めるもののほか，会議の運営に必要な事項は委員長が定める。

（庶務）

第13条　管理委員会の庶務は，教育委員会において処理する。

第３章　資料の寄贈及び寄託

（寄贈及び寄託）

第14条　郷土館は，資料の寄贈及び寄託を受けることができる。

２．前項の規定により資料を寄託しようとする者は，寄託書をもって寄託するものとする。

（寄託資料の管理）

第15条　寄託された資料の管理は，郷土館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。ただし，館長が，必要と認めたときは，特別の措置を講じることが，できる。

（寄託資料の返付）

第16条　寄託資料は，寄託者の請求又は資料館の都合により返付することが，できる。

（経費の負担）

第17条　寄託に要する経費は，寄贈者又は，寄託者の負担とする。ただし，館長が必要と認めた場合はこの限りではない。

（損害賠償の責任）

第18条　寄託資料が火災その他不可抗力により滅失し，汚染し，又は損壊したときは，損害賠償について当該寄託者と町が協議して決定するものとする。

附則

１. この規則は，公布の日から施行する。

２. 南種子町博物館運営規則（昭和 45 年教育委員会規則第２号）は廃止する。

３. 南種子町体育館使用規則（昭和 41 年教育委員会規則第１号）は廃止する。

附則（昭和 61 年４月 10 日教委規則第１号）

この規則は，公布の日から施行する。

附則（昭和 63 年３月 10 日教委規則第１号）

この規則は，昭和 63 年４月１日から施行する。

附則（平成４年６月 26 日教委規則第２号）

この規則は，公布の日から施行する。

第２章　館の事業

第１節　展示

１．常設展示

１階展示室

民俗展示室（１階）

廊下（１階）

山本直純記念室（１階）

◆民俗展示室（１階）

住まいに関する生活用具を中心に展示。

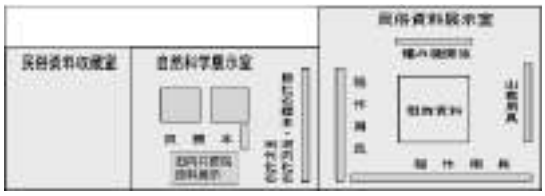
◆廊下（１階）

南西諸島において，現役で最後まで使用していた丸木舟（牛野春芳氏寄贈）を展示。また、隣接する１階民俗展示室には通常の丸木舟も展示してあり，それぞれの歴史や生活感などの違いを感じて欲しいとのねらいもあり，比較展示を行っている。

◆山本直純記念室（１階）

山本直純氏愛用の楽器・オーディオ機器・レコード・盾・賞状などの寄贈品を展示。また，山本直純氏との交流のきっかけとなったイベント「英国祭トンミーフェスティバル」についても，パネルで紹介している。

２階展示室



２階民俗展示室（稲作用具）

２階民俗展示室（山樵用具）

２階民俗展示室（戦時資料）

２階自然科学展示室（貝標本）

◆民俗展示室（２階）

稲作用具を中心とする農具や山で使用する山樵用具等を展示。また，展示スペースの関係で，軍服・勲章・遺書などの戦時資料等も，同室に展示している。

◆自然科学展示室（２階）

今から１６００万年前の河内貝化石群や５００万年前の田代化石をはじめとする貝の化石標本を展示。また，併せて，種子島で採集した貝の標本も展示している。

２．企画展示

令和３年度新収蔵資料展開催

期間：令和３年７月１日～８月31日

内容：令和元年度～令和２年度に寄贈していただいた新収蔵資料を公開。資料は日露戦争関係の證書やワキ鋸・タバコ盆などの民具資料をはじめ，約２億２千万年前の珪化木・写真館で使用していた蛇腹式カメラ・山本直純氏のご長男「山本純ノ介」氏寄贈のCDや書籍等々，多岐にわたった。

過去の企画展から「ウミガメ展」のパネル展示開催

期間：令和３年７月１日～11月19日

内容：種子島は，屋久島に次ぐ「アカウミガメ」の上陸地であり，ウミガメ監視員が，撮影したウミガメの上陸や産卵の様子を撮影した写真や上陸数の状況をグラフ化したパネルなどを展示，さらにウミガメに関心を持ってもらうため，ウミガメに関するクイズもパネルで紹介。

過去の企画展から

「種子島南種子町宝満池鴨突き網猟」パネル展示開催

期日：令和３年11月19日～２月22（日）

内容：宝満池の鴨突き網猟は，江戸時代前期頃から行われているとても貴重な風俗慣習で，県の文化財に指定されている。パネル展では，猟の方法や猟で使用する突き網についてもミニチュアを展示して解説。また鴨に関するクイズもパネルで紹介。

「長谷の歴史　長谷開拓75周年記念展」開催

期間：令和４年３月１日～３月31日

内容：荒地であった長谷地区は，戦後全国から集まった開拓者たちによって切り拓かれ，今日，作物が豊かに実る立派な大地が築き上げられた。企画展では，戦後の開拓から75周年を迎えた今日までの長谷の歴史について，パネルで紹介した。映像資料として，平成19年度町生涯学習大会で披露された長谷小学校PTA制作「長谷開拓物語」の劇や平成11年に結成された郷土芸能「長谷エイサー」等をビデオで紹介した。また，長谷エイサーについては，長谷小学校から太鼓等の用具を借用して展示も行った。

第２節　体験学習

体験学習・出前講座は，郷土館と町埋蔵文化財センターの共同事業として実施している。

今年度は，割ばし鉄砲・ブンブンゴマ・紙粘土勾玉・貝殻アクセサリー・アンギンコースターづくりなどの体験学習を実施。（竹笛については，直接，口に銜えて使用するので，新型コロナウイルス感染拡大防止の為，今年度も中止した。）

割りばし鉄砲づくり

割りばし鉄砲は，割りばしと輪ゴムを使って鉄砲をつくり，輪ゴムを飛ばす昔の子供の遊び道具である。本町「南種子町」は，1543年（天文12年）明国船（ポルトガル船籍）が漂着し，乗っていたポルトガル人から鉄砲が伝わったという歴史的背景もあることから，その史実も伝えながら割りばし鉄砲づくりを行っている。

鉄砲の銃身を長くすることで，よりスピードや威力がつくが，コントロールは，少し難しくなる。また，輪ゴムを掛けた時にすぐに飛んでしまう場合は，引き金に暴発防止のための輪ゴムを取り付ける。蛇口には，カッターで溝を掘って輪ゴムを掛ける方法と十字型になるように輪ゴムで取り付け，輪ゴムを掛ける方法があるが，体験学習では，怪我をしな

いように，後者の十字型にしている。さらに，鉄砲に自分の好きな色を塗って，見映えを良くしたり，厚紙でつくった恐竜の的をねらって倒し，点数を競うゲームなども行っている。

ブンブンゴマづくり

ブンブンゴマは，ダンボールや紙パネルなどを丸く切って，中央に２ケ所穴をあけてヒモを通して作る。ヒモを引っ張ったり，緩めたりすることでヒモがよじれたり，元に戻ろうとする原理で回す昔の遊び道具である。このよじれたヒモが，元に戻ろうとする原理は，舞ぎり式の火おこし道具の芯棒（摩擦棒）を回す原理と同様であることから，「火おこしの体験学習」を行う際にも紹介している。またダンボールの表面に様々な模様や色を塗ることで，コマが回った時にできる微妙な色合いを楽しむこともできる。因みに通常コマに塗られている色には，健康への願いが込められているといわれ，昔は新築や入学のお祝い・５月の節句・結婚式の引き出物などに贈られていたようである。

※赤色は心臓の健康・黒色は腎臓の健康
・黄色は肝臓の健康・緑色は膵臓
・白色は肺の健康を意味するといわれている。

紙粘土でつくる勾玉づくり

広田遺跡ミュージアムでは，滑石という軟らかい石を紙ヤスリで削って勾玉づくりを行うが，埋蔵文化財センターでは，まず紙粘土で勾玉の形をつくり，それを４～５日乾燥させてから３種類の紙ヤスリで表面を磨いていく方法で行っている。しかし，この方法だと，参加者は２回来なければならなくなるため，１回で完成させたい方には，館であらかじめ型枠で作って乾燥させておいたものを使用して，磨いてもらっている。またきれいに磨いた表面には，防水処理として，自分の好きな色や模様をアクリル絵の具で着色している。完成した勾玉は，ヒモを取り付けて首飾りにする。

貝殻アクセサリーづくり

水を入れた紙コップに３～４色のマニキュアを１滴ずつ垂らすと波紋ができ，それを爪楊枝などで模様を作り，その中にタカラガイなどの貝殻を入れて，模様を写し取るものである。マニキュアの色や模様の作り方，貝殻の大きさや貝殻を入れる場所によってそれぞれ違った模様になり，自分だけのオリジナルな貝殻アクセサリーができるのが最大の魅力で，人気がある。また，貝殻の模様が乾くまでの時間を利用して，貝に取り付けるためのストラップ（ヒモ）を編むようにしている。

アンギン（縄文時代の編み機）コースターづくり

アンギンは，衣服や物を入れる袋などを編んでいた縄文時代の編み機である。体験学習では，実用を兼ねて，湯呑み茶碗やコーヒーカップなどの下に敷くコースターづくりを行っている。実際編んでみると，１人でヒモを押さえながら編んでいくのは難しく，子供たちには，１人がヒモを押さえ，もう１人が編んで行くといったふうに２人１組で行うようにしている。また，ヒモにマジックで好みの色を塗ることで，自分だけのオリジナルのコースターを作ることができる。

＊体験学習の利用状況については別表を参照。

写真　体験学習の様子

第３節　出前講座

○講座：貝殻で作ろう～オリジナル古代アクセサリー～（町内児童 40 名）
日時：令和３年５月 12 日（水）10 時 05 分～
場所：自然の家
講師：小脇有希乃（町埋蔵文化財センター）

○講座：島間の歴史を知ろう (島間小 10 名)
日時：令和 3 年 6 月 11 日 (金)8 時 30 分～
場所：自然の家
講師：小脇有希乃（町埋蔵文化財センター）
○講座：勾玉作り (自然の家宿泊学習，中平小 5 年 28 名)
日時：令和 3 年 6 月 24 日 (月)8 時 30 分～
場所：自然の家
講師：小脇有希乃（町埋蔵文化財センター）
○講座：校区フィールドワーク
日時：令和 3 年 8 月 30 日 (月)13 時 30 分～
場所：大川小学校
講師：小脇有希乃（町埋蔵文化財センター）
○講座：古代塩づくり体験学習
日時：令和 4 年 1 月 19 日 (水)14 時 20 分～
場所：大川小学校
講師：小脇有希乃（町埋蔵文化財センター）

令和 3 年度　南種子町郷土館及び埋蔵文化財センター体験学習室利用状況

月	幼児	小学生	中学生	高校生	大学生	一般	計	町内	島内	島外
4 月	1	125	0	0	0	19	145	138	0	7
5 月	19	79	3	0	0	25	126	124	0	2
6 月	7	79	14	0	0	15	115	113	0	2
7 月	7	52	2	0	0	39	100	90	4	6
8 月	8 月 14 日～ 8 月 31 日まで新型コロナウイルス感染拡大防止の為、閉館									
	9	12	0	0	0	12	33	19	9	5
9 月	9 月 1 日～ 9 月 13 日まで新型コロナウイルス拡散防止の為、閉館。									
	9 月 14 日～南種子町民限定で開館、体験学習は、中止。									
	0	0	0	0	0	12	12	12	0	0
10 月	12	8	0	0	0	40	60	49	6	5
11 月	6	1	2	0	1	28	38	27	1	10
12 月	21	9	0	0	0	27	57	45	5	7
1 月	10	19	3	0	0	41	73	63	0	10
2 月										
3 月										
計										

第 3 節　資料収集

令和 2 年度収集資料

提　供　者	住　所	資　　料　　名（個数）	備　考
前村　フサエ	長谷	※足踏み式ワラ縄網機一部（4）	町内
前田　九二四	神奈川	※種子島焼の鉢（1）・甕（1） ※書物「種の国に生きる」（1） ※書物「昭和回顧録、わが人生の記」（1）	南種子町出身者
才川　忠則	上中	※約 2 億 2 千万年前の珪化木（1） ※明治三十七八年従軍記章の證書「才川助市」（1） ※陸軍工兵軍曹任命證書「才川助市」（1） ※銃口術卒業證書「才川伊角」（1） ※明治勲章勲八等白色桐葉章「才川伊角」（1） ※明治三十七八年従軍記章の證書「才川伊角」（1） ※善行證書「才川伊角」（1） ※明治三十七八年戦後の功證書「才川伊角」（1） ※日露戦争の宣戦詔勅（2） ※戊申詔書（1） ※第七回馬耕競技会證書一等賞「才川伊角」（1） ※第 10 回鹿児島県農会農事講習会修了證書「才川助市」（1）	町内

日高　叶	上中	※ワキ鋸（１）	町内
柳田　和則	上中	※メジロ用鳥カゴ（１） ※ホオジロ用鳥カゴ（１）	町内
山本　純ノ介	東京	※書物「オーケストラがやってきたが帰って来た」（１） ※松竹映画「男はつらいよシリーズ 50 周年記念作品お帰り寅さん」オリジナルサウンドトラックＣＤ（１） ※雑誌取材記事のコピー（２） ※コロナ禍ノンディミヌエンドのメロディー譜コピー（１）	山本　直純（長男）

令和３年度収集資料

提　供　者	住　所	資料名（個数）	備考
小脇 サツ子	西之	※ワキ鋸（１点）	町内
都　貴美夫	中種子町	※マルチ音楽プレーヤ及びレコード（1 式）	
西村　貞則	西之表市	※西村時印関係の遠矢碑の木碑（1） ※八幡神社への寄進札（1）	
中畠　伝	平山	※特務艦志自岐遭難に関する資料のコピー（1）	町内

第 4 節　資料整理

令和３年度は，２階民俗収蔵室の収蔵資料カードを作成した。本号では，郷土館が収集し，記録保存している郷土芸能・文化財関係映像の一覧を提示する。これらの映像は，DVD で借用可能である。

番号	地区	集落名	内容	収穫日
1	茎永	上之町	弁慶踊	H16.10.17
2	茎永	中之町	山口踊	H8.10.20
3	茎永	上里・新上里	源吾婆	H16.10.17
4	茎永	新上里	ちくてん	H12.10.22
5	茎永	下之町	比翼連理	H16.10.17
6	茎永	茎南小学校	棒踊	H16.10.17
7	茎永	上之町	棒踊	H12.10.22
8	茎永	上里・新上里	東山	H8.10.20
9	茎永	中之町	山口踊	H16.10.17
10	茎永	下之町	比翼連理	Ｓ６３年
11	茎永	上之町	弁慶踊	H28.10.2
12	茎永	中之町	山口踊	H28.10.2
13	茎永	上里・新上里	源吾婆	H28.10.2
14	茎永	茎南小学校	棒踊	H28.10.2
15	茎永	下之町	比翼連理	H28.10.2
16	平山	広田	安城踊	H21.10.25
17	平山	広田	ちくてん	Ｓ６３年度
18	平山	西之町	棒踊	H21.10.25
19	平山	浜田	安城踊	H15.9.27
20	平山	浜田	ひょうたん踊（笠踊）	Ｓ６３年度
21	平山	中之町	さんご踊	H21.10.25
22	平山	中之町	ひょうたん踊	H15.9.27
23	平山	西之町	ヤートセー	H13.10.21
24	平山	浜田	弁慶踊	H21.10.25
25	平山	浜田	ナギナタ踊	H17.10.16
26	平山	西之町	源太郎踊	H6.10.23
27	平山	浜田	安城踊り	H13.10.21
28	平山	平山小学校	ナギナタ踊り	H13.10.21
29	平山	中之町	西目出し（田口家落成）	H22.8.15
30	平山	西之町	源太郎踊（Ｈ２６年ふるさと祭）	H26.11.3
31	平山	西之町	西目出し	不明
32	平山	西之町	西目出し（鹿児島国民文化祭）	H27.11.2
33	下中	下中地区	ひょうたん踊（Ｈ２２年ふるさと祭）	H22.11.3

34	下中	夏田・郡原	ひょうたん踊	H4.10.4
35	下中	郡原	ヤートセー	H8.10.26
36	下中	真所	ヤートセー～山口踊～土佐から	H8.10.26
37	下中	里・山神	ヤートセー～十七・八	H8.10.26
38	西之	本村・崎原	さんご踊	H18.11.5
39	西之	本村・崎原	棒踊	H10.11.7
40	西之	中西目	しょんがばぁ	不明
41	西之	西野小学校	しょんがばぁ	H2.11.6
42	西之	下西目	ヤートセー	H8.10.30
43	西之	上西目	しんご踊	H2.11.6
44	西之	上西目	ヤートセー～御縁節～お前はたが子	H10.11.7
45	西之	中西目	安城踊	H8.10.30
46	西之	砂坂・官三牧	ヤートセー～御縁節	H8.10.30
47	西之	平野	安城踊（H17年度ふるさと祭り）	H17.11.3
48	西之	平野	ヤートセー～甚平口説	H10.11.7
49	西之	西野小学校	棒踊	H8.10.30
50	西之	下西目	安城踊（平成6年度民俗芸能祭）	H6.10.22
51	西之	下西目	源吾ばぁ	不明
52	西之	野大野・上瀬田	ヤートセー～御縁節	H21.11.1
53	西之	上西目	ヤートセー～御縁節～お前はたが子	H8.10.30
54	西之	平野	安城踊	H20.10.17
55	西之	下西目	ヤートセー	H27.10.25
56	西之	上西目	ヤートセー	H27.10.25
57	西之	野大野・上瀬田	ヤートセー	H27.10.25
58	西之	田代	ヤートセー	H27.10.25
59	西之	上西目	お前はたが子	H27.10.25
60	西之	上西目	御縁節	H27.10.25
61	西之	野大野・上瀬田	御縁節	H27.10.25
62	西之	田代	十七・八	H27.10.25
63	西之	本村・崎原	棒踊	H27.10.25
64	西之	西野小学校	棒踊	H27.10.25
65	西之	西野小学校	棒踊	H25.10.20
66	西海	中之塩屋・大川	ヤートセー	H13.10.28
67	西海	牛野	棒踊	H13.10.28
68	西海	牛野	棒踊	H24.10.28
69	西海	上立石	くらまぐち（花のかずかず）	H13.11.23
70	西海	上立石	くらまぐち（花のかずかず）	H25.10.6
71	上中	上野	安城踊	H9.10.12
72	上中	上野	笠踊（ヤートセー）	H7.10.29
73	上中	上之平	弁慶踊	H20.10.19
74	上中	大宇都	ナギナタ踊	H4.10.4
75	上中	大宇都	棒踊	H20.10.19
76	上中	本町	棒踊	H4.10.4
77	上中	山崎	ヤートセー	H9.10.12
78	上中	河内・新栄町	ひょうたん踊	H20.10.19
79	上中	焼野	ひょうたん踊	H7.10.29
80	上中	仲西	棒踊	H 9.10.12
81	上中	西之町	安城踊	H1.10.15
82	上中	西之町	ちくてん	H7.10.29
83	上中	西之町	ヤートセー	H9.10.12
84	上中	上中大踊保存会	安城踊	H20.10.19
85	上中	上中大踊保存会	安城踊	H22 年度
86	島間	上方	さんご踊	H7.11.1
87	島間	上方	七九の竹	H15.10.4
88	島間	上方・大久保	十二提灯（はま踊）	H17.11.15
89	島間	上方	ヤートセー	H19.10.14
90	島間	上方	ひょうたん踊	H15.10.4
91	島間	上方	棒踊	H15.10.4
92	島間	小平山	ヤートセー	H19.10.14
93	島間	小平山	弁慶踊	H19.10.15
94	島間	小平山	ナギナタ踊	H21.11.15
95	島間	仲之町	かじょうがね	H19.10.15
96	島間	仲之町	オオニサー（四国山三味は稽古）	H19.10.15
97	島間	仲之町	棒踊	H15.10.4
98	島間	仲之町	ヤートセー	H15.10.4
99	島間	田尾	ヤートセー	H15.10.4
100	島間	田尾	ナギナタ踊	H15.10.4
101	島間	田尾	弁慶踊	H21.11.15
102	島間	田尾	どすこい（すもう取り節）	H7.11.15
103	島間	仲之町	おかげ参り	不明
104	島間	仲之町	ヤートセー	H25.10.6
105	島間	田尾	ナギナタ踊	H25.10.6
106	島間	上方・大久保	十二提灯（はま踊）	H25.10.6
107	島間	仲之町	オオニサー（四国山三味は稽古）	H.17.11.15

108	島間	仲之町	ヤートセー	H 17.11.15
109	島間	小平山	ヤートセー	H 17.11.15
110	島間	仲之町	かじょうがね	H 17.11.15
111	島間	小平山	ナギナタ踊	H 17.11.15
112	島間	田尾	ナギナタ踊	H 17.11.15
113	島間	上方・大久保	ひょうたん踊	H 17.11.15
114	島間	小平山	弁慶踊	H25..10.6
115	島間	田尾	ヤートセー	H27.10.18
116	島間	仲之町	ヤートセー	H27.10.18
117	島間	上方・大久保	ひょうたん踊	H27.10.18
118	島間	田尾	ナギナタ踊	H27.10.18
119	島間	小平山	しらさぎ	H27.10.18
120	島間	仲之町	かじょうがね	H27.10.18
121	長谷	摺久保	西目出し	H2.9.19
122	長谷	長谷地区	エイサー (平成１７年ふるさと祭)	H17.11.3
123	茎永	茎永地区	赤米をめぐるまつり (赤米館ビデオ)	不明
124	茎永	茎永地区	稲作と儀礼 (赤米館ビデオ)	不明
125	茎永	茎永地区	南種子浪漫紀行 (赤米館ビデオ)	不明
126	茎永	茎永地区	茎永宝満神社落成式 神楽奉納	H11.7.3
127	茎永	茎永地区	蚕舞 (茎永校区青年団)	H26.1.14
128	茎永	茎永地区	宝満池の鴨猟	不明
129	茎永	保存会	宝満神楽 (文化協会チャリティ)	H23.8.21
130	茎永	茎永地区	宝満神楽 (平成１２年民俗芸能祭)	H12.10.28
131	茎永	茎永地区	赤米お田植祭～ 収穫	S５８
132	茎永	茎永地区	赤米お田植祭	S６１
133	茎永	茎永地区	赤米お田植祭	H9.4.3
134	茎永	茎永地区	赤米お田植祭	H23.4.3
135	茎永	茎永地区	赤米お田植祭 (シュエイ取り)	H24.4.3
136	茎永	茎永地区	蚕舞	H26.1.14
137	茎永	茎永地区	赤米お田植祭 (神事)	H27.4.3
138	茎永	茎永地区	赤米お田植祭 (田植・田植舞)	H27.4.3
139	茎永	茎永地区	赤米お田植祭 (直会)	H27.4.3
140	茎永	茎永地区	赤米お田植祭 (宝満神楽)	H27.4.3
141	茎永	茎永地区	宝満神社願成就祭 (神事)	H28.10.2
142	平山	広田	広田石塔祭り	H8.8.15
143	平山	広田	岩穴焚き	H8.12.14
144	平山	中之町	めでた節 (田口家落成)	H22.8.15
145	平山	平山文化保存会	福祭文 (ＮＨＫ出演)	H6.9.24
146	平山	平山小学校	鳥刺し舞	S 60年
147	平山	平山文化保存会	鳥刺し舞 (ＮＨＫ出演)	H6.9.24
148	平山	平山文化保存会	鳥刺し舞	H15.3.14
149	平山	平山文化保存会	鳥刺し舞 (文化協会チャリティー)	H23.8.21
150	平山	平山文化保存会	鳥刺し舞 (文化財調査委員会)	H24.5.25
151	平山	平山文化保存会	鳥刺し舞 (文化財調査委員会)	H24.10.22
152	平山	平山文化保存会	鳥刺し舞 (民俗芸能報告書用)	H26.6.29
153	平山	平山文化保存会	婆じょう舞 (ＮＨＫ出演)	H6.9.24
154	平山	平山文化保存会	婆じょう舞 (文化協会チャリティー)	H23.8.21
55	平山	平山文化保存会	婆じょう舞 (文化財調査委員会)	H24.5.25
156	平山	平山文化保存会	婆じょう舞 (文化財調査委員会)	H24.10.22
157	平山	平山文化保存会	婆じょう舞 (民俗芸能報告書用)	H27.1.12
158	平山	平山小学校	蚕舞	S 60.年
159	平山	浜田	蚕舞 (ＮＨＫ出演)	H6.9.24
160	平山	浜田	蚕舞	H14.1.15
161	平山	平山文化保存会	蚕舞 (第２回民俗調査委員会)	H24.10.22
162	平山	広田	蚕舞 (民俗芸能報告書用に撮影)	H24.1.23
163	平山	浜田	蚕舞 (民俗芸能報告書用に撮影)	H26.1.14
164	平山	平山文化保存会	ガニ舞 (鹿児島国民文化祭)	H27.11.2
165	平山	平山文化保存会	鳥刺し舞 (鹿児島国民文化祭)	H27.11.3
166	平山	平山小学校	鳥刺し舞 (鹿児島国民文化祭)	H27.11.2
167	上中	上野	盆踊 (上中信光寺)	S58.8.18
168	上中	仲西	蚕舞	不明
169	上中	大宇都	蚕舞	不明
170	上中	大宇都	蚕舞	H26.1.12
171	上中	上野	蚕舞	H26.1.15
172	上中	上之平	蚕舞	H26.1.18
173	西之	西之地区	「西之の砂糖すめ (砂糖づくり)」	H16.12.12
174	西之	西之地区	西之ＰＴＡ 「西之の砂糖すめ」	H20.12.14
175	西之	砂坂・官三牧	西之本国寺盆踊 (たけなが)	H13.8.16
176	西之	上西目	西之本国寺盆踊 (たけなが)	H13.8.16
177	西之	上西目	西之本国寺盆踊 (たけなが)	H21.8.16
178	西之	本村・崎原	西之本国寺盆踊 (つんたん拍子)	H10.8.16
179	西之	田代	西之本国寺盆踊 (つんたん拍子)	H20.8.16
180	西之	平野	西之本国寺盆踊 (つんたん拍子)	H24.8.16
181	西之	中西目	西之本国寺盆踊 (きのぎの)	H27.8.16

182	西之	田代	西之本国寺盆踊 （つんたん拍子）	H 17.11.15
183	下中	山本直純 花峰小	夢の船「ドラメルタン号の歌」 制作発表	H 17.11.15
184	下中	花峰小・ＰＴＡ	「ドラメルタン号物語」 の劇	H 17.11.15
185	下中	花峰小	ドラメルタン号物語の劇 （H 24 年度ふるさと祭）	H 17.11.15
186	下中	寺内昭徳	馬耕風景	H 17.11.15
187	下中	下中地区	下中八幡神社田植祭 「シュエイ取り」	H 17.11.15
188	下中	下中地区	下中八幡神社 お田植祭「神事」	H25..10.6
189	下中	下中地区	下中八幡神社お田植祭 「お田植え～ナオライ」	H27.10.18
190	下中	下中地区	下中八幡神社 お田植祭（H２０年）	H27.10.18
191	島間	峰山祝文撮影	オーギ切り （Ｓ３８年）	H27.10.18
192	島間	峰山祝文撮影	オラが田植え （Ｓ３８年）	H27.10.18
193	島間	峰山祝文撮影	南の島の雪便り （Ｓ３８年）	H27.10.18
194	島間	峰山祝文撮影	昭和 38 年当時の 田植え風景	H27.10.18
195	島間	峰山祝文撮影	昭和 38 年 島間港	H2.9.19
196	島間	峰山祝文撮影	昭和 38 年 島間地区運動会	H 17.11.15
197	島間	島間伝統文化保存会	バック一舞 （文化協会チャリティ）	H 17.11.15
198	島間	島間伝統文化保存会	バック一舞 （民俗芸能報告書）	H 17.11.15
199	島間	島間伝統文化保存会	バック一舞 （鹿児島国民文化祭）	H 17.11.15
200	西海	牛野	南西諸島現役最後の 丸木舟出良	H 17.11.15
201	西海	牛野	南西諸島現役最後の 丸木舟「漁を終えて」	H 17.11.15
202	西海	下立石	下立石塩釜神社 火入れ祈祷「神事」	H25..10.6
203	西海	下立石	下立石塩釜神社 火入れ祈祷「酒宴」	H27.10.18
204	西海	下立石	下立石塩釜神社 火入れ祈祷	H27.10.18
205	西海	下立石	下立石塩釜神社 火入れ祈祷	H27.10.18
206	西海	牛野	牛野トヨ女 顕彰碑除幕式	H27.10.18

第５節　企画展紹介「長谷の歴史　長谷開拓 75 周年記念展」

郷土館企画展

長谷の歴史

＝長谷開拓75周年記念展＝

郷土館では令和４年３月1日（火）～３月３1日（木）まで、「長谷の歴史＝長谷開拓７５周年記念展＝」と題して、企画展を開催いたします。

荒地であった長谷地区は、戦後、全国から集まった開拓者たちによって切り拓かれ、その「不屈の精神」は、今日、作物が豊かに実る立派な大地を築き上げました。

開拓75周年を迎え、さらに発展を続ける「長谷の歴史」について紹介いたします。

お誘い合わせの上、ぜひご来館ください！

▲長谷小学校開校当時の職員（昭和２４年頃）　▲昭和３１年に建てられたブロック校舎　▲昭和６３年に建てられた校舎（現在の校舎）

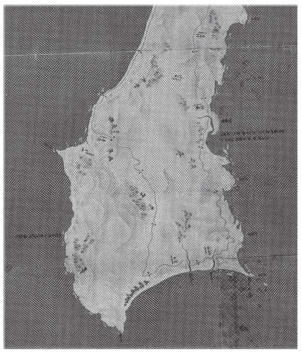
- 開催期間
  令和4年3月1日（火）～3月31日（木）
- 開催場所
  南種子町郷土館（南種子町中央公民館内）
- 開館時間
  午前9：00～午後5：00
- 休館日
  毎週月曜日・毎月第4金曜日

長谷の地名について

「長谷」という地名は、江戸時代に種子島家が作成した「種子島方角私帳」（1812年）の記録に最初に登場します。この古文書には、今の花峰小学校あたりから北東方向に行ったところを「長谷」といい、人家が2軒あることが記されています。この長谷は「ナガタニ」と読み、今の「永谷」の周辺だとする説もあります。

また、元禄15年（1702年）に書かれた「元禄絵図」には、西之表から南種子へ続く幹線道路が記されており、その道は島間上方から上妻城を通り、長谷野に上がって上中方面に抜ける道でした。

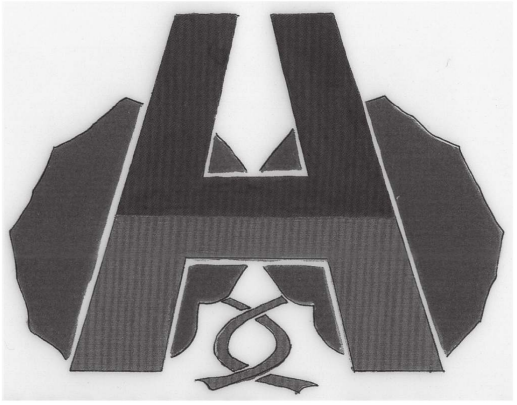
さらに、「種子島家譜」にも、幕末の女殿様松寿院が島内巡検をした際（1855年）に、「長谷野に小憩し、午飯を」食べたことが記されていることから、長谷野という地名は当時からあり、主要な幹線道路が通っていたことがわかります。このように、「長谷」の地名は、少なくとも江戸時代にまでさかのぼります。



元禄絵図中の種子島幹線道路が赤線で記されています。

長谷地区公民館シンボルマーク

この地区旗のデザインは長谷開拓50周年記念事業の中で、地区民を中心に広くシンボルマークを募集して選ばれたもので、作者は原尾集落の「都　喜美夫」氏です。



シンボルマークの説明（都　喜美夫　氏）

長谷の大地になじみの深い「つわぶき」の葉を左右に配置し、その葉柄をからませることにより南種子町と中種子町にまたがる長谷地区民の融和を表わしました。また、中央の「H」は「HASE」のイニシャルを表わし、Hの上半分は緑の平地を、下半分の茶褐色は大地をイメージして、Agriculture（農業）のAに関連させるとともに、南種子町のシンボルであるロケット基地、そして、そこから打ち上げられ、人々の夢と希望を乗せ大空へ向かって、果てしなく進んでいくロケットの夢を連想させました。

長谷小学校創立・長谷開拓五十周年記念誌より

戦後の長谷開拓

■長谷の荒地に挑む「たくましき開拓者たち」！

戦争直後の日本は、戦争で働き手の多くが兵隊にとられ、田畑は荒れ、食料が極端に不足していました。 海外の植民地からの引き上げ者、復員軍人など人口が急増し、食糧不足をどう解決するかが、国のさし迫った大きな問題でした。そこで政府は緊急開拓政策を立て、こうした引き上げ者や復員軍人たちを開拓地に送り込むため、「農地解放政策」と併せ、全国に開拓地を急増させました。

ここ長谷地区においても、戦後昭和２１年から実施された「農地改革」により南種子村と中種子村の両村に広がる長谷野の民有地５４２．４ｈａが開放されました。長谷地区は南種子町の北部に位置し、本町と中種子町の町境をまたいで標高約２００ｍの台地で、島内では比較的高い標高です。また、この台地の地表のくぼみの至る所から水が湧き、それが川となって四方の麓の農地を潤してきました。しかし、長谷の表土は強い酸性の黒土（クロボッコ）で、粒子が細かく水通しが悪いため、農地には適さず、数百年にわたり牛馬の牧草地として使用されていました。そうした状況を知っている島民たちは、今回の開拓もまた、一時の緊急避難で、事態が収まれば故郷に帰るものと思っていたそうです。当時、県の開拓増産隊のリーダーとして入植した高城良昭氏も、ある人に「長谷に１０年居たら、おばさんが逆立ちして上中の町を廻って見せる」と言われたそうです。

そうした長谷の荒地に、昭和２１年６月、パラオ諸島からの引揚者が入植し、さらにサイパン島とテニアン島のからの引揚者も加わり、１０月には５０戸が入植しました。その後、さらに満州や朝鮮からの引揚者、さらに南種子や中種子の入植希望者が加わり、昭和２２年末頃には、総勢１７６戸（９００人余り）の入植となりました。入植者は１２の帰農組合をつくり、農地開拓営団の指導の下、緊急の目的である食糧自給に加え、新たな農村建設をめざして開墾事業に取り組みました。開墾は、まず用地に生えた草木の伐採をし、焼き払いの後、開墾鍬を使って木の根やススキの根株などを取り除き、地表の２０ｃｍぐらいまで、びっしりと絡み合ったチガヤやススキの原野を、一日何千回、何万回と鍬を打ちおろして土を掘り起こす作業を延々続けなければなりません。また、木の根を抜く作業ともなると、一日かけても終わらないこともあり、気の遠くなるような重労働の日々だったといいます。

■生きるために、 食べられるものは何でも食べた！

しかし、入植当初は頼みの綱とする開拓補助金も必要な時期には支払われず、年度ギリギリに形だけで終わるような状況でしたから、開拓者はその日その日を生きるための生活費の確保に追われ、近所の農家に労力を提供したり、海辺に薪を運んで塩たきもしたそうです。開拓者の多くは配給の食糧や物資を売って生活費にあて、ツワブキ・ワラビなどの山菜から澱粉カスなど、生きるために食べられるものは何でも食べて、飢えをしのいだといいます。

■長谷開拓農業協同組合が設立！

昭和２２年１１月、農協法の制定により帰農組合が統合され、翌年昭和２３年４月３０日、組合員１７０名の県下でも最大の「長谷開拓農業組合」が設立しました。その後、長谷開拓農業協同組合は、昭和３８年に川西農業跡開拓パイロット地区の１０名、昭和４５年４月に赤石開拓農協の組合員１０名が加わり、長谷地区の広大な農地造成とその集落づくりに貢献しました。

そして、昭和４９年６月、一応の使命を果たした長谷開拓農業組合は解散となりました。

長谷開拓農業協同組合の理事の皆さん（昭和３６年頃）

開拓農協は、各種の開拓助成金・開拓者金融資金の窓口となり、開拓政策の執行機関として開拓者の生活を支えました。

「長谷の今昔」 南種子町地名研究会「鮫島正孝氏（著）」
「原尾集落」 都 貴美夫氏（著）
長谷小学校創立・長谷開拓五十周年記念誌より

入植者の現地入りは、引揚地別・出身地別のグループで行われ、それぞれの入植年月も異なりました。政府の方針で、それらはグループごとに帰農組合をつくりました。開拓初期の入植状況は下表のように１７７戸で、昭和３８～３９年頃にピーク（１８４戸）となり、その後昭和４０年代になると、離農者が増え続け、昭和４９年の長谷開拓農協の解散時には１１２戸となりました。帰農組合は開拓地の整備と進展につれ、集落に発展し、解消しました。

帰農組合一覧（昭和２１年末頃：１７７戸）

組合名	戸数	出身地
第一原尾組合	二十一	南洋（パラオ）・その他
第二原尾組合	三十一	南洋（パラオ）
天城組合	十二	南洋（サイパン・テニアン）・その他
奄美組合	十一	奄美
出之平組合	八	既住・その他
極南組合	五	地元・その他
南種子組合	十五	県内
島間組合	十六	地元・その他
国之峯組合	二十二	南洋・その他
寺内組合	十二	満州・朝鮮・台湾・南洋
協同組合	十	県内
拓南組合	十四	県内

長谷開拓の実績表（昭和 49年6月現在）

①投　資

項　　目	金　　額
開拓者資金借入金	77，092 千円
開懇補助金	62，464 千円
農林漁業公庫資金借入金	31，650 千円
その他の資金借入金	11，200 千円
電気導入負担金	4，791 千円
合　　計	187，197 千円

②基盤整備

項　　目	面　　積	項　　目	面　　積
地区総面積	542.4 ha	幹線防風林	24.0 ha
宅地その他	17.4 ha	道路網	延 16，650 m
開　　畑	327.2 ha	薪炭採草地	142.4 ha
開　　田	32.5 ha	(内農地造成地)	(61.37 ha)

③入植施設

施　　設　　名		数
住宅及び農用施設		334棟
電　　気		17，750 m (受電戸数172戸)
飲用水施設		深井戸112基　　導水２ヶ所
公共施設	小学校	南種子村立長谷小学校１校
	婦人ホーム	１棟

南種子町郷土誌より

台風におびえた開拓初期の住居！

開拓初期の住居は、そのほとんどが応急の掘っ立てで、屋根も壁も茅葺きでした。中には壁もない三角の屋根に、床は地面に茅を敷いただけの住居もあったそうです。こうした掘っ立ての家は、班の人たちが総出で建てたそうです。２m程の２叉のある木を柱にし、桁・梁を乗せて組み、合掌（ガッショウ）を組んだ上に棟木を乗せます。そして、そこに真っすぐな細い雑木を四方八方に垂らしてくくりつけ、その上に竹を１５ｃｍ程の間隔で横に編んでから、茅で屋根を葺きあげました。壁も同様に茅葺で、床には竹を隙間なく編み、その上に筵（ムシロ）を敷いたそうです。

入植当時の茅葺掘っ立ての住居（昭和２０年頃）

家の中には囲炉裏や土間に石や粘土でつくった竈（カマド）があり、囲炉裏には梁からつるした自在鉤（ジザーギ）があり、それに鍋をかけて、料理の煮炊きに使用しました。こうして苦労をして建てた家でしたが、台風ですぐに倒壊してしまい、秋にはまた建て替えなければなりませんでした。その後、台風による住宅災害に対応して少しずつ公営仮設住宅が建てられるようになり、住み心地も多少良くなりましたが、狭くて耐用年数も数年ぐらいだったそうです。

昭和４０年頃の自宅（写真提供：土屋二郎　氏）

しかし、昭和３０年代になると、桜島の開拓者が製造するコンクリートブロックが普及し始め、４０年代にはほとんどの住宅の外壁に使われるようになり、住み心地も格段によくなったそうです。

待望の電気導入に歓声が上がる！

家の灯りは、最初はカンテラ、それからホヤつきのランプと、ランプでの生活が長く続きました。昭和２０年代当時、電灯は文化のシンボルで、昭和２７年以来、長谷拓協内でも中種子の中田に自家用水力発電所をつくることが検討されましたが、組合員の慎重論が強く、当時あった南種子農協の水力発電所からの受電に頼ることになりました。当然、電力は不足状態で長谷一円まで供給する能力はなく、結局、九州電力からの受電を待つことになりました。そして、昭和３６年１１月５日、入植以来１５年にしてようやく、うっとうしいランプ生活から解放され、地区民あげて工事の完成を祝ったそうです。わずか２０ワットの電灯でしたが、その明るさに歓声があがったそうです。

現在の住居・街並み（令和4年1月撮影）

平成の時代になると、世代交代に伴い、近代的な住宅に変わってきました。

公立種子島病院付近

長谷十文字

長谷小学校付近

「長谷の今昔」 南種子町地名研究会「數島正孝　氏」（著）
長谷小学校創立・長谷開拓五十周年記念誌より
自宅の写真提供　土屋二郎　氏

碑　文（昭和四十三年）

昭和二十一年六月、私たちは南洋群島パラオ諸島から引き揚げた同志を第一陣に、その八月までにサイパン、テニアン、其の外内外各地からの引揚者百七十四世帯と共に着のみ着のままの状態で、長谷の荒野に開拓の鍬をおろしました。

以来二十三年、入植当時の苦難の日々はいまだに記憶に生々しいものがあります。第一に食糧難、開拓の合間を見ては、今日の糧を求めるため、近所の農家に労力を提供し、ツワブキ、ワラビなどの山菜、澱粉粕、石亀などは重要な主食となりました。又は海辺に薪を運び塩たきもしました。第二に住宅難、掘立小屋に茅の屋根、防空壕を住居にした者もありました。衣類など二の次で、ただ生きるための糧を求めるだけの日々でした。

苦難の積み重ねは徐々に報われ、荒野は沃野と変わり美田となり、長谷野にまかれた一粒の麦は開墾の血と汗と涙を吸い今みのりの時を迎えたのです。これは我々同志のたゆまぬ努力と何ものにも屈しない開拓精神によるものですが、同時に関係当局、地元民各位のあたたかい指導と援助があったからに外なりません。

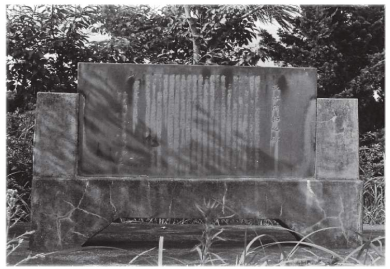
この時、記念碑の建立が南種子町によって行われるにあたり、ここに長谷開拓の苦難に満ちた歴史を永く世につたえるため碑文をしたためるものであります。

昭和四十三年十二月吉日

長谷開拓農業組合

建立

南種子町



長谷開拓之碑（昭和４３年）

碑　文（平成八年）

火山灰土に芽が群生する長谷の大地は耕作に適せず、古くから牧野として利用され、人々が定住すること稀であった。明治時代以降いくばくかの人々が定着した。第二次世界大戦末期は本土防衛に備えて陸海軍の駐屯地となった。一九四五年（昭和二〇年）終戦の直後、外地引揚者等が新天地を求めてこの長谷地区に多数入植した。茅葺き掘立小屋に食糧不足という厳しい状況下、すべて人力による艱難辛苦の開墾作業であった。一九四七年（昭和二二年）長谷小学校設立。長谷地区全域にかつてなかった開拓者精神が満ち、新しい村づくりが進んだ。一九六二年（昭和三七年）開拓パイロット事業による入植も加わり長谷の荒野は豊かな郷に変貌した。現在は本町の副都心として発展し続けている。終戦時の画期的入植から五十年、ここに長谷地区の開拓の歴史を偲びこの碑を建立する。

平成八年六月

長谷地区民一同

南種子町

平成８年に新しく建てられた長谷開拓之碑

旧海軍分遣隊の兵舎を利用して小学校開校！

昭和２２年、生徒数１２３名・教職員６名・４学級編成で、旧海軍分遣隊の兵舎を利用して、長谷小学校が開校しました。それまでは、中平・南界・島間の各小学校へ歩いて通学していました。

小学校に利用された兵舎は昭和１６年に建てられたものですが、台風と白アリの被害で次々に使用不能となり、最後に残った分遣隊の旧車庫と並んだ比較的大きい１棟に生徒を集め、授業が行われました。こうした状況の中、一日も早い学校建設が望まれたが、なかなか進みませんでした。一方、中種子地区の南界小学校は立派な校舎だったので、少々遠くても南界小学校へ通学させる家庭も多く、このままではせっかく開校した長谷小学校が廃校に成りかねないと、当時、長谷小学校設立建設委員長の山口博氏（マオラン栽培に神戸の会社から転勤して来られた方）は、区長と一緒に中種子南界地区の会長や父兄を説得しました。その甲斐あって、２２名の児童が南界小学校から長谷小学校へ転校してもらえるようになりました。また、山口氏は校舎の建築の敷地についても、会社の土地を利用できるように神戸の会社の方を説得したりと、長谷小学校の建設に尽力されました。そして、ようやく昭和３０年、待望の校舎（木造）が完成かと思われたが、不運にもその年の９月に襲来した台風２２号によって、完成間近の校舎が全壊してしまいました。しかし、翌年昭和３１年には、この地では初めての白亜に赤い屋根のブロック造りという立派な校舎が完成しました。心配していた児童の数も昭和３９年には２６５名と創立当初の２倍以上にもなり、発展を遂げました。

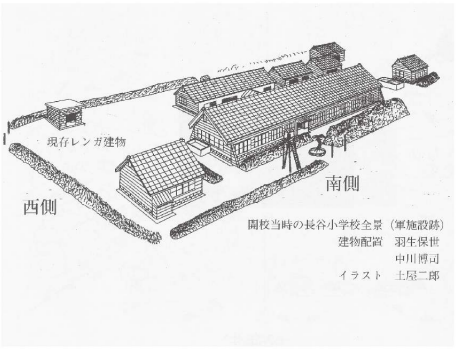
明治の初めから昭和３０年代までの学校建設は、すべてが校区民の負担でした。長谷は開拓地ということで、多少手加減はあったものの、用地造成などは全て校区民の負担でした。当時の用地造成は、大部分がスコップとモッコの手作業で整地作業が行われ、戸当たり一週間以上の労働奉仕が求められたそうです。

開校当時の職員（背景は旧校舎：旧海軍分遣隊の兵舎跡）昭和２４年頃

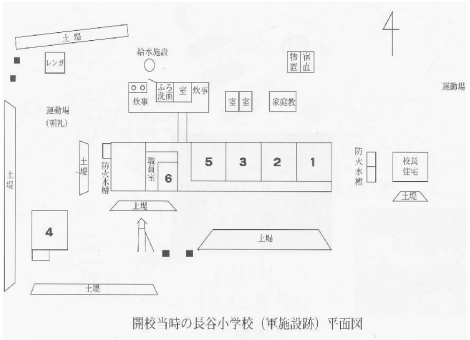
写真提供：小園幸生 氏

昭和３１年に新築したブロックの校舎　（撮影は昭和４０年頃）

写真提供：土屋二郎氏



開校当時の長谷小学校全景（軍施設跡）
建物配置　羽生保世
　　中川博司
イラスト　土屋二郎

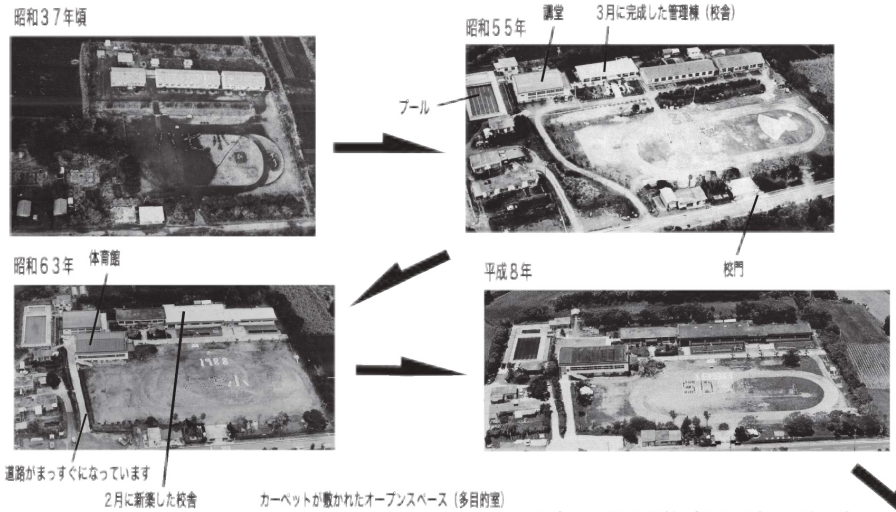


開校当時の長谷小学校（軍施設跡）平面図

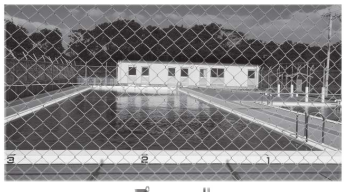
「長谷の今昔」 南種子町地名研究会「鮫島正孝氏（著）」
「長谷小学校創立・長谷開拓五十周年記念誌」より

その後、昭和４６年に講堂、昭和４７年にプールが完成し、さらに昭和５５年に管理棟の新築、昭和５８年には体育館の完成と、設備も充実してきました。そして、昭和６３年２月、４室の普通教室と図書館・家庭室、音楽室、多目的室・給食の配膳室も設置され、当時、熊毛地区では初のカーペットを敷いたオープンスペースが自慢の立派な校舎が完成しました。

長谷小学校の児童は校訓「かしこい子供・やさしい子供・たくましい子供」をめざし、緑いっぱい、花いっぱいの素晴らしい学校で精いっぱいがんばっています。創立７５周年を迎え、輝かしい歴史と伝統の中で築かれた素晴らしい校風は、教育に対する情熱と開拓魂によって受け継がれ、現在に至っています。

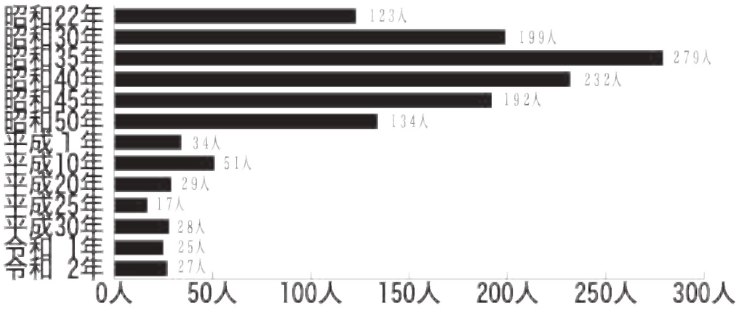


現在の長谷小学校（令和４年１月撮影）



児童数の推移（昭和２２年～令和２年）

創立当時の児童数は１２３名でしたが、年々増加し、昭和３５年には２７９名とピークを迎えます。しかし、その後、高度成長時代に突入すると、農業の衰退を招き、地盤の弱い開拓農業はその影響を受け、徐々に児童数も減少していきました。さらに少子化の影響も受け、島外からの留学生を含めても、現在、３０名足らずの児童数となっています。



プール

体育館

学校沿革史（略史）

＊昭和２２年　長谷小学校創立（旧陶軍分遣隊建物を借用）
＊昭和３１年　ブロック校舎（１００坪）新築
＊昭和３４年　発電室設置・ブロック校舎（７０坪）新築
　　校歌制定
＊昭和３６年　簡易水道設置
＊昭和４３年　創立２０周年記念式典
＊昭和４７年　プール落成
＊昭和５０年　校門設立
＊昭和５１年　校章制定・制服制定
＊昭和５２年　創立３０周年記念式典・校旗制定
＊昭和５５年　校舎（管理棟）落成
＊昭和５８年　体育館落成
＊昭和６３年　新校舎落成
＊平成　８年　創立５０周年記念事業並びに式典
＊平成１０年　県学校保健優良校表彰
＊平成１９年　新プール竣工
＊平成２２年　熊毛地区道徳教育研修会授業公開
＊平成２５年　町研究協力校学習指導法改善（算数科）研修公開
＊平成２７年　本校卒業生「郷原芳久」氏より本と書架を寄付
＊平成２８年　創立７０周年記念秋季大運動会・長谷フェスティバル実施・シャワー室設置
＊平成３０年　交通安全優良学校表彰（九州交通安全協会より）
＊令和　元年　全国交通安全優良学校表彰（国より）
＊令和　２年　学校保健優良学校（文部科学大臣より）

資料提供：長谷小学校

平成11年8月4日、「長谷エイサー同好会」が発足
長谷地区の郷土芸能となる！

■　「エイサー」発足のきっかけ

長谷地区は戦後、南洋諸島からの引揚者や北は北海道から南は沖縄まで、全国各地からの開拓入植者によって発展を遂げてきました。しかし、様々な地域から集まってできた地区であることから、他の地域のような古くからの郷土芸能がなく、毎年開催される町のふるさと祭りで郷土芸能を披露することにとても苦慮していたそうです。そうした折、新長谷集落の長田繁氏が沖永良部に行く機会があり、そこで沖永良部の高校生が披露した「エイサー」を見て大変感動し、このすばらしい踊りを今後の長谷地区の郷土芸能として定着させたいと思い、長田氏が長谷地区公民館の役職を持った時に提案したのがきっかけです。

＊エイサーは１９９６年、アメリカのアトランタオリンピックで開催された折、沖永良部と沖縄の高校生が合同で披露されたそうです。

■　「エイサー」発足～活動

平成１１年７月１２日、長谷地区の有志により「すべての世代でできる踊りを、長谷地区独特の郷土芸能として創作し、根付かせよう」と発起人準備会を立ち上げ、同年８月４日、稗畠悦朗氏を初代会長とし、「長谷エイサー同好会」が発足しました。長谷地区は特に沖縄などの南方からの入植者が多く、沖縄への思い入れが深かったことから沖縄エイサーをやることに決定したそうです。

発足当時は道具を購入する資金集め・踊りの覚え方・三線の練習・衣装の揃え方など、すべてがゼロからの出発で大変苦労をしたそうです。練習は沖縄からビデオテープを取り寄せ、各楽器の音を取り出し、各パートに分かれて何度も何度も繰り返し見ながら、少しずつ覚えていったそうです。毎週３回、約２ヶ月間練習を行い、目標であった長谷小学校の運動会（平成１１年９月２６日開催）での初披露が実現しました。エイサー熱は小学校にも拡がり、平成１３年には長谷小学校校歌編曲バージョンのエイサーも完成しました。

発足当初は３０数名の会員でしたが、平成２８～２９年頃には６０名を越える会員数となり、現在、小学生７名・中学生６名・高校生３名・一般３２名の計４８名で活動しています。町のふるさと祭りや町民大運動会をはじめ、長谷地区の運動会、さらには中種子町の農林業祭・西之表市の鴨女町夏祭り・特別養護老人ホーム慰問等々、活動の場を拡げています。

長谷エイサー同好会歴代会長

初代会長　：稗畠悦朗　氏
２代目会長：富久正末　氏
３代目会長：前田浩光　氏

郷土の新しい伝統芸能だ
住民総出で「エイサー」
地区おこしに踊り創作

南種子町町制５０周年記念式典「和太鼓ジョイントコンサート」
（平成１８年6月２４日）

長谷小学校創立６０周年記念フェスティバル
（平成１８年１２月3日）

第２４回南種子町
第４９回熊毛地区生涯学習大会（平成２０年１１月8日）

長谷小学校創立７５周年記念運動会（令和３年９月１９日）

資料提供：長田 繁 氏
前田浩光 氏
写真提供：町役場公園課

長谷の夜明け（児童用）

昭和六十二年十一月
長谷小学校家庭教育学級（編集・構成）より

長谷小学校の周辺には、広々とした畑が広がり、サトウキビやサツマイモなどがたくさん収穫されています。

しかし、今から四十年ぐらい前は、このあたりは草や木が生い茂る荒れた土地でした。この話は、荒れた土地を切り開き、自分たちの住む村をつくりあげた人々の話です。

戦争で何もかも失った人々が、自分たちの住む土地を求めて次々にやってきました。しかし、目の前に広がるのは、草や木がぼうぼうと生い茂る荒れた土地ばかりです。

「何だ、ここは！草や木ばかりではないか！どうやって、ここに自分たちの住む家をつくれるのだ！」「こんな土地では、とても作物をつくることはできない。鎌や鍬だけで、この荒れた土地を切り開けるはずがない。」と、人々は口々にそう言い合い、ただぼんやりと荒れた土地を眺めていました。

「だが、ここが、わたしたちの土地なのだ！どんなに苦しくても自分たちの住む村をつくろうではないか！」と、誰かが力強く、こう言いました。

「よし、みんなで力を合わせて、この荒れた土地を切り開こう！」

人々は希望に燃え、開拓を始めました。しかし、鎌と鍬だけだは、一日中働いても、ほんの少ししか開拓できません。手にはマメができ、血がにじんでいます。一日中働き、疲れ果てて帰っても、食べるものと言えば、そのあたりに生えているツワブキ・ワラビなどでした。お米を買いたくても、お金がないのです。人々は海辺にマキ（薪）を運び、塩たきをして塩をつくり、その塩を売って、お米を手に入れました。

「食べるものもろくにないのに、開拓なんて無理だ！こんな荒れた土地に、自分たちの村などつくれるはずがない。」と、あまりの苦しさに、二人、三人と土地を去って行く人も出てきました。茅ぶき屋根のすき間からは、冬の冷たい風が吹き込み、寒くて眠れない日もありました。

しかし、人々は「いつかは、自分たちの村を・・・・・」という希望を持ち、来る日も来る日も木を切り倒し、草を刈り、耕し続けました。すると、一年、二年と経つうちに、あんなに荒れていた土地に、黒々とした畑がポツリポツリとあらわれ始めました。

そして、十数年という長い開拓の末、長谷野の荒れた土地は、サトウキビやサツマイモが豊かに実る土地に生まれ変わったのです。

「ここが、わたしたちの村だ！よし、もっと豊かな村をつくろう！」と、人々の希望はさらに大きくなり、豊かな村づくりのために努力を続けました。

昭和四十三年、長谷小学校の正門脇に、「長谷開拓の碑」が建てられました。これは、長谷野の開拓のことを忘れないで欲しいという願いのもとに、建てられたものです。

広田遺跡ミュージアム・南種子町郷土館　館報　第６号

発行日　令和４年３月 30 日

編集・発行
　広田遺跡ミュージアム
　〒 891-3702 鹿児島県熊毛郡南種子町平山 2571
　TEL 0997（24）4811
印刷所
　㈱種子島新生社印刷
　〒 891-3101 鹿児島県西之表市西之表 16736 番地 1
　TEL 0997（22）0476

BULLETIN OF HIROTA SITE MUSEUM
AND
MINAMITANE TOWN FOLKLORE MUSEUM

Volume 6

March 2022

MINAMITANE TOWN HIROTA SITE MUSEUM

AND

MINAMITANE TOWN FOLKLORE MUSEUM